

学校法人 高松学園

令和6年度事業報告書

I 法人の概要

1. 基本情報

(1) 学校法人高松学園

(2) 主たる事務所の住所：長野県飯田市松尾代田 6 1 0 飯田短期大学内

電話番号 0265-22-4460

F A X 0265-22-4474

2. 建学の精神

高松学園初代理事長である高松了秀は、真宗の教育を実現すべく、「新しい時代にふさわしい教養豊かな女性を、伝統の念仏の心をもとに育てたい」という願いのもと、学校法人高松学園を創設した。

時代が移り変わり、価値観が大きく変化し多様性が求められる中、本学園のあり方も少しずつ変化してきている。しかし、根底に流れている開学時の精神は変わることなく、人間（ひと）を育てる学園として歩んでいかねばならない。よって本学園は、この願いを「うつくしく生きる」ということばで表現し、建学の精神としている。

私たちは、一人ひとりが尊く大切な存在である。自分が尊く大切な存在であるのと同じように、他の人も尊く大切な存在である。そのことに気づくことができれば、自分にも人にも優しくなれるはずである。しかし、現実には、人と自分を比較して一喜一憂し、自分が望むような生活ができない、人が自分の望むように行動してくれないと、思い通りにならない原因を自分以外のものに求め、自分自身を省みることがない。

それ故に、うつくしい世界・生き方というものがあることに気づかなければならない。まずは、うつくしい生き方をしていない自分を自覚することが出発点となるのである。

3. 学校法人の沿革

大正 3 年 4 月	飯田市伝馬町善勝寺境内にて慈光幼稚園開園
昭和 3 3 年 1 0 月	学校法人高松学園認可
昭和 3 4 年 4 月	飯田女子高等学校開校
昭和 4 1 年 8 月	慈光幼稚園を学校法人高松学園に編入
昭和 4 2 年 4 月	飯田女子短期大学開学（入学定員 家政科 1 0 0 名、保育科 5 0 名）
昭和 4 3 年 4 月	飯田女子短期大学家政科を家政専攻（入学定員 5 0 名）と食物栄養専攻（入学定員 5 0 名）に分離
昭和 4 4 年 4 月	飯田女子短期大学家政科家政専攻の入学定員を 1 0 0 名に変更
昭和 4 7 年 4 月	飯田女子短期大学家政科を家政学科に保育科を幼児教育学科に名称変更
昭和 5 1 年 4 月	飯田女子短期大学幼児教育学科の入学定員を 1 0 0 名に変更
昭和 5 4 年 1 0 月	学校法人高松学園創立記念式典を挙げる
昭和 5 9 年 2 月	慈光幼稚園創立 7 0 周年記念式典を挙げる
昭和 5 9 年 4 月	飯田女子短期大学幼児教育学科の幼児教育コースと社会福祉コースを設定
昭和 6 0 年 4 月	学校法人信州学園より伊那女子高等学校の経営移管を受け、伊那西高等学校と校名変更し開校
昭和 6 1 年 5 月	飯田女子短期大学創立 2 0 周年記念式典を挙げる
昭和 6 3 年 1 0 月	飯田女子高等学校創立 3 0 周年記念式典を挙げる
平成 5 年 1 0 月	慈光幼稚園創立 8 0 周年記念式典を挙げる
平成 8 年 4 月	飯田女子短期大学看護学科開設（入学定員 6 0 名、修業年限 3 年）
平成 9 年 4 月	飯田女子短期大学家政学科家政専攻に生活デザインコースと健康生活コースを設定
平成 1 1 年 4 月	飯田女子短期大学に専攻科地域看護学専攻（入学定員 1 5 名、保健師養成）・専攻科

		助産学専攻（入学定員5名、助産師養成）を開設。いずれも修業年限1年
平成12年	4月	飯田女子短期大学家政学科家政専攻を家政専攻（入学定員60名）と生活福祉専攻（入学定員40名、介護福祉士養成）に分離 また家政専攻健康生活コースを保健養護コース（養護教諭養成）に、幼児教育学科社会福祉コースを福祉心理コースに名称変更
平成13年	4月	飯田女子短期大学に保育士資格を有する者を対象とする介護福祉士養成課程として専攻科福祉専攻（入学定員20名、修業年限1年）を設置
平成15年	3月	飯田女子短期大学専攻科地域看護学専攻及び助産学専攻が独立行政法人大学評価・学位授与機構の専攻科として認定を受けた
平成15年	4月	地域の多様な学習ニーズに対応するため、飯田女子短期大学に生涯学習センターを設置
平成15年	10月	慈光幼稚園創立90周年記念式典を挙げる
平成16年	3月	飯田女子短期大学家政学科食物栄養専攻が栄養教諭養成課程として認定を受けた
平成17年	4月	飯田女子短期大学家政学科家政専攻生活デザインコースを生活造形コースに名称変更
平成18年	3月	伊那西高等学校は校舎の老朽化および耐震への対応を踏まえて校舎改築事業を開始（1、2、3号館を取壊し回廊式新校舎を建築する2年事業計画）
平成19年	3月	飯田女子短期大学は、平成18年度財団法人短期大学基準協会による第三者評価を受け、長野県の私立短期大学として初めて「適格」認定を受けた
平成20年	2月	飯田女子短期大学に専攻科養護教育専攻（2年課程）が、養護教諭1種免許状取得専攻科として文部科学省、独立行政法人大学評価・学位授与機構より設立の認可を受けた
平成20年	3月	伊那西高等学校校舎改築事業が完了し回廊式新校舎が竣工
平成20年	4月	慈光幼稚園が認定こども園へ転換し、児童福祉施設「慈光めぐみ保育園」を併設して認定こども園慈光幼稚園となった
		飯田女子短期大学に専攻科養護教育専攻（2年課程、養護教諭1種免許状取得、独立行政法人大学評価・学位授与機構認定専攻科）を開設
平成20年	10月	飯田女子高等学校創立50周年記念式典を挙げる
平成21年	3月	飯田女子短期大学に幼稚園教諭1種免許状の取得できる専攻科幼児教育専攻を開設（2年課程、独立行政法人大学評価・学位授与機構認定専攻科） 伊那西高等学校「新講堂」が竣工
平成21年	4月	飯田女子短期大学家政学科の入学定員を60名から40名に、幼児教育学科の入学定員を100名から80名へ変更 認定こども園慈光幼稚園は園舎建設後30年が経過し、耐力度検査の結果、園舎建替工事を開始。現地での建替のため、工事期間中の21年度は、飯田女子短期大学敷地内の地域響流館を借りて1年間幼児教育・保育を行った
平成22年	3月	認定こども園慈光幼稚園の新園舎が竣工
平成22年	7月	飯田女子短期大学のキャンパス内地域響流館に、飯田市子育て支援拠点事業の『わいわいひろば』を開設。
平成25年	4月	飯田女子短期大学幼児教育学科の学科内コース制（幼児養育コース・福祉心理コース）を廃止
平成25年	8月	飯田女子高等学校は耐震審査の結果を受け、現地での校舎建替を開始（工事期間中は旧長野県飯田工業高等学校校舎を仮校舎として運営）
平成25年	11月	慈光幼稚園創立100周年記念式典を挙げる
平成26年	3月	飯田女子短期大学は第2クールの一般財団法人短期大学基準協会の第三者評価を受け、「適格」の認定を受けた
平成26年	11月	伊那西高等学校30周年記念式典を挙げる
平成27年	1月	飯田女子高等学校新校舎が竣工

平成27年	3月	飯田女子短期大学の本館棟耐震化事業が2年計画で完了
平成27年	4月	新認定こども園法施行に伴い、認定こども園慈光幼稚園が幼保連携型認定こども園慈光幼稚園に移行
平成29年	4月	飯田女子高等学校に通信制普通科開設（収容定員240名）狭域性単位制
平成29年	4月	飯田女子短期大学介護福祉士実務者学校介護福祉士実務者研修（通信課程）開設
平成31年	4月	飯田女子短期大学専攻科幼児教育専攻を廃止
令和2年	4月	飯田女子短期大学幼児教育学科の入学定員を80名から60名に変更
令和4年	4月	飯田女子短期大学家政学科生活福祉専攻の名称を介護福祉専攻に変更
令和5年	4月	飯田女子短期大学を飯田短期大学に家政学科を生活科学学科に名称変更

4. 設置する学校・学部・学科等

- (1) 飯田短期大学 生活科学学科 幼児教育学科 看護学科 専攻科
- (2) 飯田女子高等学校 全日制普通科 通信制普通科
- (3) 伊那西高等学校 全日制普通科
- (4) 幼保連携型認定こども園慈光幼稚園

5. 学校・学部・学科等の学生数の状況

(令和7年5月1日現在)

学校名		入学定員	入学者数	収容定員※	現員数
飯田短期大学	生活科学学科	130	69	260	150
	幼児教育学科	60	45	120	84
	看護学科	60	35	180	136
	本科計	250	149	560	371
	専攻科	30	21	40	25
	総計	280	170	600	396
飯田女子高等学校	全日制	215	134	640	488
	通信制			240	84
伊那西高等学校	全日制	170	128	520	369

※高校（全日制）は、1年～3年までの入学定員の総数

幼保連携型認定こども園 慈光幼稚園	利用人数（定員）						計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
1号定員（60）				11（20）	11（20）	10（20）	32
2号定員（80）				17（25）	28（25）	29（30）	74
3号定員（40）	1（4）	9（16）	34（20）				44
総定員（180）	1（4）	9（16）	34（20）	28（45）	39（45）	39（50）	150

6. 定員充足率

(毎年度5月1日現在)

学校名		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
飯田短期大学		79.5%	74.2%	71.3%	70.7%	68.7%
飯田女子高等学校	全日制	81.8%	81.2%	85.9%	83.1%	76.3%
	通信制	25.0%	31.3%	36.7%	35.0%	35.0%
伊那西高等学校	全日制	79.6%	77.1%	69.7%	67.6%	71.0%
幼保連携型認定こども園 慈光幼稚園		106.1%	96.1%	87.8%	85.6%	83.3%

7. 役員の概要

役職名	定員数	現員数
理事	6～10	8
監事	2	2
評議員	18～25	18

(1) 理事・監事一覧

役職名	氏名	就任年月日	役職
理事長	高松彰充	H25. 4. 1 (H11. 4. 1)	理事長、教授
常任理事	田中宏幸	R6. 4. 1	飯田女子高等学校長
常任理事	原 博文	R6. 4. 1	伊那西高等学校長
常任理事	武分祥子	R2. 4. 1	飯田短期大学学長・教授
常任理事	高松里子	R5. 4. 1	認定こども園慈光幼稚園園長
常任理事	木下幸彦	H28. 6. 1	法人本部事務局長
理事／非常勤	外松秀康	H30. 6. 1	会社役員
理事／非常勤	北沢資謹	R6. 6. 1	会社役員
監事／非常勤	尾太慎二	R1. 6. 1	会社役員
監事／非常勤	鈴木広隆	R6. 12. 6	会社役員

(2) 評議員一覧

役職名	氏名	役職名	氏名
評議員 (学内)	高松彰充	評議員 (学外)	北沢資謹
評議員 (学内)	田中宏幸	評議員 (学外)	伊坪 眞
評議員 (学内)	原 博文	評議員 (学外)	吉澤文男
評議員 (学内)	武分祥子	評議員 (学外)	小島嘉治
評議員 (学内)	高松里子	評議員 (学外)	長谷川敬子
評議員 (学内)	木下幸彦	評議員 (学外)	加藤和子
評議員 (学内)	平岩麻美	評議員 (学外)	中山雄介
評議員 (学外)	高松和子	評議員 (学外)	永井大嗣
評議員 (学外)	外松秀康	評議員 (学外)	篠田典秀

※私立学校法の改正により 6 月に開催される評議員会の終了後より、役員、評議員の構成が変更される

8. 教職員の概要

	常勤教員	非常勤教員	常勤職員	非常勤職員	合計
法人本部			1		1
飯田短期大学	53	86	16	17	172
飯田女子高等学校	38	20	6	3	67
伊那西高等学校	30	11	5	2	48
認定こども園慈光幼稚園	13	23	1	7	44
計	134	140	29	29	332

常勤教員には学長・校長・園長を含む

II 事業の概要

【飯田短期大学】

1. 教育理念・目的・目標等

(1) 教育理念

本学は「うつくしく生きる」という建学の精神に則り、それを具現化するための方向性として以下の3つを示します

- ①私たちは、それぞれが異なる存在であり、異なる存在であることが尊いことを認識し、自分と違った生き方を尊重できる私を目指します。
- ②私たちが知る世界はごく一部である。真実の世界はそのもっと奥深いところにあることを自覚し、常に学び続けます。
- ③私たちは、周りの願いに気づき応えていくことで、自分の人生の意義を見出していきます。

(2) 教育目的

建学の精神に基づき、確かな知識・技能、幅広い教養を身に付け、豊かな人間性、主体性をもって社会に貢献できる人間を育成します。

(3) 教育目標

- ①建学の精神に基づき、豊かな人間性を涵養します。
- ②建学の精神に基づき、豊かな教養及び専門的な知識・技術を備えた人間を育成します。
- ③建学の精神に基づき、主体的に社会の発展・向上に寄与できる人間を育成します。

2. 教育方針

本学では、以下のような学生を育成します。

(1) 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：Diploma Policy=D P）

- ①豊かな人間性を備え、誠実・謙虚に他者や課題に向き合うことができる学生
- ②豊かな教養及び専門的な知識・技術を備え、学び続ける基礎を身に付けた学生
- ③主体的に社会の発展・向上に参画し寄与する態度を身に付けた学生

(2) 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：Curriculum Policy=C P）

- ①卒業認定・学位授与の方針（D P）に示す資質・能力を養うため、基礎・教養科目及び専門科目を相互補完的に組み合わせた教育計画を編成します。
- ②基礎・教養科目にあっては「美しく生きる」と「キャリアデザイン」を必修とすることをもって専門科目の基礎とするほか、『人間の理解』『人間と社会』『自然と生活』『外国語』『自己表現』『キャリア』の6分野から広く学生が興味関心や自己の課題に基づいた科目を選択し豊かな教養を育むことができるものとし、これらをもって建学の精神の実現に向けた学びが実現されるように教育計画を編成します。
- ③専門教育科目にあっては、D P を達成することを目指し、公的に免許されるにふさわしい、あるいは資格を得るにふさわしい専門的な資質・能力を育む科目等、高度・専門的な学びを実現することのできる科目をもって教育計画を編成します。

(3) 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー：Admission Policy=A P）

- ①本学における学修に必要な基礎的学力を有している人
- ②人間尊重の精神をもち、自己の教養・人間性を豊かにする意思のある人
- ③専門的な知識・技術・態度を主体的に身に付ける基本的姿勢を備えた人
- ④社会に関心をもち、その形成に主体的に参画する基本的姿勢を備えた人

3. 建学の精神の共有

建学の精神「うつくしく生きる」の精神を備えた人間（ひと）の育成のため、建学の精神に基づく教育活動の実施及び研修体制の充実を図るため以下について実施した。

(1) 学生に対する教育の充実

令和6年度は、建学の精神の理解を深めるために、学生便覧に掲載はもちろん、新入生ガイダンスで周知した。加えて、授業「美しく生きる」は必修として学生が受講し単位の取得に至った。

宗教行事（アセンブリーアワー、釈尊降誕会、報恩講など）についても全学で実施した。そして、9月には京都での東本願寺研修を実施した。10月の看護学科1年生の発願式は来賓及び家族に出席いただき実施することができた。

(2) 教職員への研修等の充実

新任教職員の理解を深めるため、4月の就任研修の中で建学の精神の説明をした。学生と同じく全教職員が宗教行事（アセンブリーアワー、釈尊降誕会、報恩講など）に参加し、建学の精神の浸透を図った。建学の精神については、年度初めの初会議や拡大教授会の場で、学長より話をすることで教職員と共有し、より一層意識を高める機会とした。加えて授業「美しく生きる」についてはSD研修の一環として位置づけ希望する教職員が聴講した。

4. 入学者の確保

(1) ブランディングについて

校名変更、共学化2年目も引き続き公式ホームページ・学校案内をはじめとする広報制作物、広告物等において男女の隔てなく受け入れられるブランディングを推進した。また、メディアへの露出、取材対応についても適切に行い、効率的な発信を行った。加えて、チラシの共同制作、広告発信などを通して、学園全体でのブランディングを積極的に推進した。

(2) オープンキャンパスについて

出願契機に最も影響を与えるオープンキャンパスを3月、6月、7月、8月、9月に来校型で実施した。参加のべ人数507名。受験対象者実人数は220名であった。オープンキャンパス経由の本科出願者数は133名、そのうち126名が入学し、全入学者の約88.7%がオープンキャンパス経由の入学者であった。次年度以降についても、学生スタッフをより前面に登用したオープンキャンパス運営を行い本学の魅力を更に参加者へ伝えるとともに、出願者、入学者の増加を目指してステークホルダーに対して効果的なオープンキャンパスを実施していきたい。なお、社会人向けの長期高度人材育成コース（飯田技術専門学校との連携）での入学者は、介護福祉専攻2名、食物栄養専攻2名の計4名であり、前年度より2名増加した。また、個別の学校見学依頼については14件対応し、直接接触の機会を増やすことにより出願数の増加を図った。

(3) 動画コンテンツ・情報発信について

戦略的且つ効果的な広報活動を行う上で年々重要度が増している動画コンテンツ、SNS（Instagram・LINE）をより積極的に活用し、引き続き本学ブランドの確立及び向上を推し進めた。特に広報課発信のInstagramにおいてはフォロワー数が昨年度から255件増え1,076件と現在もじわじわと増加を続けており、情報発信力の強化を目的とした学外の研修会へ職員を派遣した。さらに学生募集の動向や最新トレンドなどの情報収集を目的としたウェビナー視聴についても年間を通して課内全体で取り組み、今後もSNS等を利用して日々の出来事や教育活動などを丁寧に発信し、常に世の中の動向にアンテナを張りステークホルダーに対して積極的で効果的な広報活動を実施していく。

(4) 高校とのつながり強化について

高校生の進路に影響力を持つ高校教員との信頼関係構築と本学の教育活動への理解を得ることを目的とした高校訪問を、学生募集委員会及び教務委員会と共同で実施した。連絡懇談会については姉妹校のみの実施となったが、姉妹校2年生を対象とした短大見学会や県内高校でのガイダンスを精力的に行い、高校現場での直接接触を通して本学の早期認知と理解の契機とした。18歳人口減少、4年制大学志向による影響を最小限に抑える意味においても、姉妹校並びに近隣高校との関係構築はこれまで以上に重要事項である。県外近隣3県（新潟、岐阜、山梨）からの入学生の確保を意識しつつ、高校訪問、ガイダン

ス、指定校推薦枠の設定（通信制課程への検討含む）、選抜試験の検討などに一層注力していきたい。

(5) 令和7年度入学者選抜について

近年の受験生ニーズの変化に対応設定したオンライン面接入試に関して1名の出願利用があった。看護学科専攻科特別進学枠入試に関しては、出願者数は地域看護学専攻3名、助産学専攻3名であり、昨年度より3名減少となった。特に看護学科専攻科特別進学枠入試に関しては、看護学科志望者はもとより高校教員へも分かり易く丁寧に説明を行い、更なる周知を図っていくとともに、県外高校への適用も検討していく。また、ステークホルダーに対して入学者選抜制度を分かり易く、広く伝えることを目的とした入試ガイドを作成し、オープンキャンパスや会場ガイダンス等で有効に活用した。

さらに、年明けの早い時期に学力選抜以外の方法で姉妹校以外の高校生が利用できる自己推薦入試の設置や社会人入試の実施時期の見直しを提案し、ステークホルダーの利便性向上と入試運営業務の効率化を目的としたWEB出願システムについても導入検討を進めた。今後も年内入試である総合型選抜、学校推薦型選抜に注力しつつ、ステークホルダーに対して入学者選抜制度を分かり易く、広く伝えていく。

(6) 社会人学生の獲得について

社会人の学び直しや再就職を見据えた資格取得の最適な受け皿となりうる長期高度人材育成コース（飯田技術専門校と連携）及び専門実践教育訓練制度について、社会人を対象としたオープンキャンパス、説明会、個別学校見学を実施した。多様な学生の取り込みという点において、社会人学生は一定の市場とニーズがあると考えており、現役学生にとっても、多様な年代の仲間と共に過ごす学生生活から様々な多くの学びが得られている。今後も引き続き社会人学生の獲得に向けて取り組む方策を模索していく。

5. 学生支援

学生支援充実のために、アドバイザー（クラス担任）と学生課が連携して、日々の生活や授業に対する支援、キャリア支援、進路支援等を行った。

就職状況は好調に推移し、最終就職率（就職希望者に占める就職決定者の割合）は100%で例年通り高い水準を維持した。本学に直接寄せられた求人件数は650件あり、学生課内のファイルや掲示のほかホームページへ求人情報を公開をして学生のタイムリーな就職活動をフォローした。

公務員対策講座 WEB 講座、教員採用試験ガイダンス、ハローワークと連携した就職相談（6回）等を実施した。就職ガイダンス・就職活動の進め方は各学科で実施し、卒業生対象キャリアサポートセミナーも実施した。また、個別の就職面接指導、個別相談・履歴書添削等を実施するなど、きめ細かな就職相談・支援活動を展開した。

奨学金の対応は学生課が窓口となって申請、手続き等を行った。

<主な奨学金>

- ・日本学生支援機構奨学金
- ・長野県介護修学資金（社会福祉事業団）
- ・長野県保育士修学資金（社会福祉事業団）
- ・長野県看護職員修学資金
- ・ソロプチミスト奨学生
- ・生命保険協会奨学生
- ・東本願寺奨学金（給付）
- ・飯田短期大学奨学金

6. 地域貢献・地域連携活動の推進

令和6年度公開講座は48講座を企画し、47講座実施した。開講人数に満たなかったため1講座中止となった。コロナ禍を経てWebの講座も実施可能となり、Webの方が参加しやすい受講者のいる1講座は、ハイブリットで行った。

コロナ禍前に行っていた小学生を対象とした「キッズお仕事探検隊」の講座を夏休みの8月9日、5年

ぶりに行い A・B コースに分かれ 53 名が参加した。本講座は、申込開始後、1つのコースは半日、もう一つも 2-3 日で定員に達した。学生スタッフ 12 名が隊長として小学生を誘導し、小学生とのコミュニケーションのとり方を学ぶ機会ともなった。

宗教講座は飯田女子高等学校、宗先生を講師に 2 回開講した。9 月の土曜日に 2 回「願いがかけられている私」のテーマで開講しそれぞれ 1 回目 14 名、2 回目 17 名の参加があった。常連の受講者もあり、宗先生の集大成の講座となった。

令和 6 年 5 月 18 日(土)「成長のスポーツ選手の栄養と食事」岩瀬助教の講座をスタートに上記講座を含め令和 7 年 3 月 29 日(土)「フェルトの透明ケース」田中准教授の講座まで 47 講座を実施することができた。

本学教員の専門分野である栄養・介護・保育・看護などに関連した出前講座においては、飯田下伊那の地域を中心に保育園や小・中・高校、部会などから 15 講座への申し込みがあり、計 52 回実施、多くの児童・生徒および地域の住民などが受講した。

介護予防運動指導員養成講座は、一般 4 名、学生 4 名が受講した。本講座は、令和 5 度より e-ラーニングが取り入れられており、受講生は 1 カ月の期間で各自理論を学ぶこととなっている。その後、本学のマシンなどを使い対面での実習（介護予防運動指導員主任：富口講師）を 2 日間行ったのち修了試験を受けた。結果は、合格者 7 名 不合格 1 名だった。

その他、介護福祉専攻教員と連携をとりながら介護福祉士実務者研修（通信制）、喀痰吸引等研修を実施し事務作業を行っている。これらの講座は、大きな収益事業となっている。

飯田市養育支援家庭訪問登録員養成講座のうち、6 講座を本学の教員が担当し開催した。子どもゆめ基金助成活動事業は、3 講座を実施した。

令和 5 年度から実施している飯田市立鼎小学校のクラブ活動は、4-6 年生約 20 名に、7 月 5 日から 10 月 28 日まで 4 回、4 名の教員が交代で専門分野の講座を担当した。

地域連携センターでは、飯田市地域子育て支援拠点事業つどいの広場の 1 施設である本学設置「わいわいひろば」の管理を行っている。ひろばのスタッフは、入園前の乳幼児とその保護者が、安心して気軽に来所できるよう心がけている。令和 6 年度も季節に応じた行事や保護者に向けた講習会などを企画運営した。保護者からの相談に対しては、スタッフが適切なアドバイスを行い対応している。

本学は、平成 27 年度より社会人の職業能力開発の専門実践教育給付金制度の教育訓練施設となり、学生への周知と受給のための支援を行っている。令和 6 年度は、専攻科地域看護学専攻 1 名、幼児教育学科 1 名および食物栄養専攻 1 年の学生が教育訓練給付金を受給することができた。

その他の業務として、地域流響館内の施設予約等および介護予防運動用の設備管理を行った。

7. SD・FD活動

教職員の資質向上及び教育の質の向上を目指し、SD・FD活動に取り組んだ。

SD委員会では教職員の資質向上に関する事項、事務局の業務や学校運営の改善に関する諸活動を行っている。

主な活動内容

(1) キャンパスライフに対するアンケート

「キャンパスライフに対するアンケート」では、サポート体制、満足度、要望の把握、学習環境の整備・改善を行っている。令和 6 年度についても、オクレンジャーを使用してのオンライン上で全学生を対象にアンケートを行った。

(2) SD研修会

教職員が大学等の運営に必要な知識・技術を身に付け、能力・資質向上させるためのSD研修会を計画実施した。令和 6 年度のSD研修は、「親鸞聖人の教えを学ぶ（美しく生きるを聴講して）（講師：学長）」、「人を大切に作るキャンパス作り（講師：井坪まゆ美氏）」「かんたんを作る布ブローチ（講師：田中洋江 准教授）」を実施した。

FD活動は、FD委員会を中心に各学科専攻と連携し、地域に必要な人材の育成とそれに必要な教育の質保証に取り組んでいる。

主な活動内容

(1) 新任教職員研修会

全新任教職員に対し、FD活動及び本学の理解を目的に実施した。さらに、事務職員と教員に分けて職務に応じた研修を実施した。教員に対しては、授業技能の基本が教授された。

(2) FD研修会

市内公立高校より講師を迎え、推薦書や調査書における教育評価の読み方受け取り方を学び、高大連携の教育を行うための基礎を培う研修会を行った。

(3) 授業改善アンケート

全授業科目(非常勤教員の授業科目を含む)に対し、授業改善アンケートを実施し、その結果をPDCAサイクル回転に繋げた。

①担当教員：結果返却により、担当科目の授業改善及び学修成果評価の実施

※各教員が授業アンケート等を受けて学修成果評価とともに授業改良のための考察を継続的に提出している。

②学科長、専攻・基礎教養主任：結果確認・評価・指導による学科専攻全体の授業改善の実施

(4) 学内公開授業とその評価

授業の質の向上を目的に他教員の授業を参観しその評価を実施した。

(5) 学修成果の評価

教員がそれぞれ担当する全て科目についての自己評価を実施し(上記(3)-①)、学科長、専攻・基礎教養主任確認。後に、教務委員会が集約している。

8. 各学科・専攻、各部署の取組

<生活科学学科生活科学専攻>

1. 専攻の重点項目

(1) 希望する免許資格の取得、必要な知識・技術が修得できる効果的な授業【教育成果】

①養護教諭

養護教諭2種免許状取得者10名(90.9%) ※1名については令和7年度科目等履修生として学修継続

・教員採用試験対策(学力・面接)の実施 ※既卒者も含む

・就職相談を随時実施 ※教育機関及び教育委員会との連絡調整

・長野県教育委員会説明会の開催

・就職状況：養護助教諭等：5名・専攻科進学：5名

②ビジネス

MOS試験：8月26日実施 Excel合格者5名(合格率100%)

MOS試験：9月10日実施 Excel合格者1名(合格率100%)・Word合格者3名(合格率100%)

MOS試験：2月4日実施 Word合格者6名(合格率100%)

メディカルクラーク(医科)合格者20名 メディカルクラーク(歯科)合格者5名

ドクターズクラーク合格者11名 ホスピタルコンシェルジュ合格者11名

調剤報酬請求事務技能認定：14名

③デザイン

色彩検定3級合格者4名

(2) 物づくりの学修成果を地域社会に発信できる環境の構築【教育成果】

①卒業作品展(学内：学生ロビー・学外：飯田創造館) ②学園祭での作品展示

③(有)スミツネとの共同制作

④獅子舞フェスタへの作品出展

⑤ひさかた和紙の会との共同制作・染め技法によるデザイン制作

⑥地域発信（学生による学修成果の口演発表）：暮らしの学習交流会(10月5日(土)：上郷公民館)

(3) 学生の満足度の向上と定員充足

定員充足に至らなかった。

※今後ニーズがあると思われるビジネス分野について分かりやすく周知していく必要がある。

(4) 専攻の DP・CP・AP に対する地域のニーズの把握をカリキュラムの検討

- ①地域のニーズを反映したカリキュラム構築のため、令和7年度よりビジネス授業科目を一部刷新
- ②学修成果の可視化を目的とした学修成果ノートの配布とその説明を初回授業時に実施
- ③学修成果の自己評価と教員の学生指導を目的としたループリック評価の実施

<生活科学学科介護福祉専攻>

1. 専攻の重点項目

(1) 在学生への満足度を高め休退学0を目指す

①個別ケアが必要な学生に対して、担当制をひき早い段階で課題を明確にして指導を行った。入学時と家庭の状況が変化したため修学が継続できず、1名退学した。

- ・チームとして学生指導を行っていくために、必要に応じて会議を持ち、教員同士で情報共有し連携を密にして指導を行った。
- ・介護実習に向けて、個別指導を充実させ、それぞれの学生に応じた指導を行った。

②学生主体のわかりやすい授業を追求する。

- ・教員自身が授業力を向上する。
- ・介護総合演習など複数教員が参加する授業では、毎回振り返りを行い伝え合う。
- ・学生の活動を増やし、楽しい授業を展開する。
- ・学習成果のアンケート授業ごとのコミカード（集計方法の検討）を活用し、改善する。

⇒授業ごとに学生が書いてくるコミュニケーションカードに対して、改善が行われない場合があった。公開授業が人手不足のためなかなか行うことができなかった。

③国家試験対策を充実させる。

- ・国家試験対策を学生の個別性に合わせて実施した。全員が80点以上を獲得し合格することができた。

③利用者役、介助者役を交互に体験しながら学ぶ生活支援技術を共学の間でも配慮をしながら行う。
⇒男子学生と女子学生が同じ部屋で演習を行うことで、プライバシーにより慎重になれた。男性教員が生活支援技術に入ることで効果があった。

④地域で活躍する専門職から他職種連携を学ぶなど、多様な授業サポーターを取り入れ様々な人と出会えるよう系統的に授業を組む。

⇒今年度より、介護現場で働く外国人に来てもらうことができ、現場で働く外国人に対しても理解を深めることができた。

⑤犬との生活を継続し、人間の多様性を理解できるように授業を展開する。

⇒犬がいたから入学を決めた学生、犬とのふれあいの時間がよりどころの学生がいた。

(2) 定員充足を目指す

令和7年度入学生 20名（男子4名）であった。中信地域から4名の学生が入学した。

①介護福祉専攻について、広報活動を行う

- ・卒業生 と繋がりを絶やさず、情報を発信していく

②ダブルライセンスの獲得

⇒初男子学生が編入を果たした。

③障がい者スポーツで地域とつながる。

・車椅子バスケに加え、ボッチャなど新たに障害者スポーツを体験できるようにする。

③オープンキャンパスの充実

⇒介護福祉士養成校への入学者減少により、養成校と県との会議を行い連携を図った。

④持続可能な専攻の運営

・人材の確保

・備品の管理 劣化

2. 本科以外の事業

(1) 介護福祉士実務者研修—通信課程 22 名 (21 名資格取得)

(2) 公開講座 国家試験対策講座を 3 回実施

<生活科学学科食物栄養専攻>

1. 専攻の主な活動内容

(1) 調理実習や給食管理実習を通して、実践的な教育を実施した。

①基本的な調理技術を身につけた上で、学内外の施設で給食管理および衛生管理業務学ぶことができた。

②実習での献立作成や調理実習を通して、各疾患をコントロールする食事や乳幼児期、高齢期の食事について学んだ。

(2) 教育の一環として、学生が地域や企業と連携した食品開発を行った。

①製パン、製菓技術をプロから学んだ。

②テーマにそって考えたメニューや試作品を商品化していく流れについて学んだ。

③食品会社の見学実習において、原料の管理や製造の流れについて、卒業生を含む社員から教えていただいた (ひかり味噌、養命酒、伊那食品)。

④食品開発実習を通して商品化、メニュー化を行った。

(パン: 「信州まるごとリボンパン」 「鈴ヶ沢南蛮カレーパン」 「ボンデショコラッテ」 「野沢菜のみそマヨパン」 「栗とさつまいものうずまきパン」 「あんりんご」 「てりてりふらんす」 「クリくりアンパン」)

(焼き菓子: 「りんごと市田柿のムースタルト」 「りんごのブラウニー」

(弁当: 「ねぎ塩豚カルビ丼」)

⑤開発した商品を報道発表を通してアピールした。

(3) 在学生、卒業生への支援

① 研究への取り組み→ 米粉パンの開発

② 学生・卒業生の希望に合わせた就職支援→ 企業研究、栄養士会との連携、模擬面接

③ サークル活動の支援 (スポーツ栄養研究会、ご当地グルメ研究会、なべの会、マンガ飯)

2. 本科以外の事業

(1) 地域の食育への取り組み

①スポーツ食育の活動

・高校運動部 (野球・ラグビー・空手) 選手への栄養サポート

②出前講座 (小中学校)

・体組成計、骨密度計の活用と食事指導

③災害時栄養 (パッキングの普及) への取り組み (公民館)

(2) 管理栄養士国家試験対策講座

(3) 飯田メディカルバイオクラスター (ルミナコイド研究会) ・伊那谷アグリイノベーション推進機構・長野県栄養士会ほか

(4) 防災講座 (パッキング)、産業振興 (地域食材の啓発)、食の科学体験教室 ※補助金事業

<幼児教育学科>

1. 学科の重点項目

これまでの方向性を確認し、教育内容と学生募集の2つの視点からの取り組みを継続する。

(1) 教育内容

1) 専門的な学びの系統的整理と学修成果の把握（キャリアデザインから教職実践演習まで）

学びマップの作成や学修成果把握のための履修カルテ等の記入を行い、半期ごとに学びの状況を振り返り、学修成果を段階的に把握することができた。1年前期、キャリアデザインでは、2年間の学びのイメージを持ち、2年後期、保育・教職実践演習では、2年間を通した学びを振り返り、卒業後、生かすことができると思われる自身の強み、社会人としての今後の課題を確認した。

2) 学内の学びと学外実習をつなぐ段階的な学び

・1年次、わいわいひろばでの体験の機会を増やし、理論的・基礎的学習内容と実践とをつなぐ授業展開を試みた。1年次は、乳児の実態を知り、援助の仕方を学び、2年次では、託児を通して親子の愛着の関係についての理解を深めることができた。また「あつまれわんぱくフェスティバル」では、学生達が主体となって内容を計画し、実践することができた。

・幼児教育実習Ⅱと保育実習指導Ⅱを連動させて、幼稚園や保育所での責任実習に向けて、教材研究や指導案作成の指導を行い、連続的、段階的に授業を計画し、実施することができた。

・キャリアデザインをはじめ、2年間を通して、地域の認定こども園、保育所、施設等から特別講師を招き、講義をしていただく機会を複数回設けた。これらは実習や就職活動、進路選択に対する展望を持つ機会となった。

・令和6年度 学外実習実施状況

免許・資格	期間	実施時期等
幼稚園教諭（二種）	1年次 10日間	通年 慈光幼稚園他
	2年次 10日間	夏季休業中 出身地域の幼稚園等
保育士	1年次 10日間（保育所）	学年末休業中 出身地域の保育所等
	2年次 10日間（施設）	6月
	2年次 10日間（保育所または施設）	後期 出身地域の保育所等

3) Expression

ここ数年継続している子どもの発達段階を見据えた人形劇制作に取り組むことができた。人形や台本の制作、操演・上演を2年生が行い、照明、音響等の上演に関わる係を1年生が担い、協働による人形劇の制作と発表の機会を設けた。本学講堂での一般公開の他、姉妹園での出前公演を行い、発表することができた。講堂での公演は、人形劇の観劇に合った観客数（100名）にするため、昨年同様、姉妹園、わいわいひろば、2年生の保護者に案内を配布し、事前申し込み制とした。出前公演では、今年度は初めて慈光松尾こども園での公演を実施した。このような発表の成果として、卒業後に人形劇を保育に取り入れることにつながることを期待できる。また、単年度の脚本集を作成し、学生全員に配布した。

(2) 学生募集活動

1) オープンキャンパスでの現役保育士による保育職の魅力発信（R5より継続）

2回のオープンキャンパスにおいて、地域の保育現場で活躍する保育士の方々に体験授業を依頼し、保育士に必要なスキルについての実践を通し、保育職の魅力を幅広く伝えていただいた。これらの機会は参加高校生、学生スタッフ、教員の学び合いの機会ともなっている。

・7月

本学卒業生 姉妹園他、身近な地域に勤務する保育士

体験授業：保育の現場で行われている遊びの体験、パネルシアター

・8月

南信州有志保育士連合「傾奇組」：南信州で働く現場保育士の有志グループ

体験授業：コマ回し、けん玉、手遊び、絵本の読み聞かせ

2) ガイダンス等での魅力発信

体験授業型のガイダンスでは、遊びに関する制作等を取り入れ、親しみやすい体験を通して保育職のイメージを伝えることができるよう、内容を構成した。

3) その他

・公開講座（中学生対象） わいわいひろば 保育士の仕事体験

・保育所等への出前講座 実習巡回等の際には、共学後の学びの様子を伝えている。

・SNSを活用した情報発信では、行事の他、保育士による特別授業等の様子を発信し、地域や現場とのつながり、学びの内容の広がりについてもアピールしている。

2. 本科以外の事業

飯田市保育補助員支援員研修（飯田市より依頼）6月～9月

<看護学科>

学科の重点項目の1つ目である「学生の満足度を高め、留年による休学、その後の退学という経過をたどる学生を減らす」は、休学から退学に至った学生が1名、休学から転科を決めた学生が5名、現時点で休学の学生は2名であった。退学に至った理由は、看護師資格取得のため学習継続が自分には合わないというものであった。看護学科では、担当アドバイザー制を整えており、留年者および休学者に対しての面談も在学者と遜色なく行った。学生の意思を聴き、確認し、方向転換を考えている学生には学業が継続できるよう関わった。クラスアドバイザー及び担当アドバイザー、ゼミ教員等によるきめ細やかな関わりは継続できた。

学生の学習効果向上のために、まずは、教員間の教育環境を整える必要があるととらえ、グループワークの形で対話の機会を設けた。毎月1回開催する学科会議の30分を活用し、1グループ5～6人の4グループ編成で、テーマを設けてのディスカッションを導入しだした。このグループワークは継続予定である為、次年度評価したい。

重点項目の2つ目である「定員充足をめざす」は、共学化2年目となったものの、定員を満たすまでには至らなかった。男子学生は54人の在籍者（4月当初）のうち11人であり、2年連続2割を占めた。看護学科は男子高校生の進路先としてのニーズに見合っていると考えている。

「専攻科特別進学枠入試(以下特進枠とする)」の入試方法を導入し4年目になるが、この方法のみでは定員の充足は難しい。地域の人材獲得に向けて、公開講座やガイダンス・授業を精力的に実施してきたが、18歳人口の減少が課題となる昨今、学科単位ではなく、学校としての対策を講じる必要がある。高校生以前から本学を認知してもらえるように、広報活動の枠・幅を広げると良いだろう。

その他、令和4年度からスタートした新カリキュラムに関して、学習成果の評価を実施する時期が来ている。次年度の検討課題である。

<図書館>

1. 図書・学術委員会

- (1) 学術研究助成等：0件
- (2) 紀要41集(2024)編集中。発行部数430冊。
- (3) 平成26年学術研究等助成出版助成「地域文化論」講義集 完成・報告書提出(2024.08.29)
- (4) 学内研究集談会を視聴覚室で開催
Part1 令和7年2月26日 参加人数51人/Part2 令和7年1月27日～2月26日
プレス：南信州新聞社
- (5) リポジトリ WEK03 に紀要論文を登録

2. 図書館

- (1) 図書・雑誌・電子ジャーナル・視聴覚資料
 - ・新規購入雑誌『へるすあっぷ21』『月刊 保険診療』
休刊『地域保健(2023.3)』『保健の科学(2023.12)』 廃刊『ゆほびか(2023.5)』のため
(関係者により雑誌を選出、見本誌を関係学科・専攻内で検討後、図書・学術委員会で承認済)
 - ・Maruzen eBook Library 導入(現在は『大法輪』のみ閲覧可)
 - ・『Nursing Research』『Journal of Nursing Education』購読停止(2024.11)
(看護学科・専攻科内で検討後、2024.1に図書・学術委員会で承認済。)
 - ・2024年度図書(資産)除籍 図書750冊、教員研究費図書67冊(2024.12)
 - ・『日本食品科学工学会誌』『Food Science and Technology Research』購読停止(2025.2)
(食物栄養専攻内で検討後、2025.1に図書・学術委員会で承認済。)
 - ・保存年限が切れた雑誌の除籍、放出(2025.2)
 - ・Maruzen eBook Library 電子書籍導入準備完了(2025.3)
- (2) 館内展示、利用教育、広報(抜粋)
 - ・特集コーナーをX、instagramで発信
 - ・新入生対象館内ガイダンス全クラス実施(2024.4-5)
 - ・介護福祉専攻1年生 小川先生の授業で図書館を利用した調べ学習について(2024.4.23)
 - ・いいたんおしゃべり読書会(2024.5.30)
 - ・図書館で千本つり大会(2024.6.11-24) 雑誌付録プレゼント企画(参加者：学生41名、教職員5名)
 - ・試験前開館(2024.7.27-28)
 - ・本屋大賞図書展示
 - ・食物栄養専攻2年生 千先生の授業で文献検索ガイダンス(2024.9)
 - ・絵本作家さん追悼絵本展示
(せなけいこさん 2024.10、中川李枝子さん 2024.10、いわむらかずおさん 2024.12)
 - ・看護学科2年生 授業で文献検索ガイダンス(2024.11)
 - ・リーディングルーペ・リーディングトラッカー(バリアフリー読書補助具)の導入(2024.11)
 - ・図書館でガチャガチャ(2024.12.9-11) 雑誌付録プレゼント企画
 - ・いいたんおしゃべり読書会(2024.12.19)
 - ・2025芥川賞・直木賞受賞作展示(2025.1)
 - ・試験前開館(2025.1.26, 2.1)
 - ・社協報『おマメで』3月号へ執筆「知っていますか？バリアフリー図書」(2025.1)
- (3) 他館との連携

①長野県図書館協会大学専門図書館部会図書館研究会への参加

②図書館大会への参加

③信州共同リポジトリへの参加

④姉妹校図書館との連携

・飯田女子高校へ除籍本の寄贈（2025. 2）

（4）その他（他部署との連携業務、参加した研修等）

・医中誌オンライン研修（2024. 4-5）

・教職員・情報通信技術支援員（ICT 支援員）著作権講習会（オンライン）（2024. 7. 31）

・読書バリアフリーオンライン研修（2024. 8）

・文化庁著作権セミナー オンライン視聴（2024. 8）

・学生証/職員証/科目等履修生証 新入生/職員用写真加工・出力

・健康センター：ミニ図書館（本の入れ替え）

・広報課：OC スケジュール作成、ルーラードイラスト作成、いいたん定規・ペン作成手伝い

・看護学科：助産・母性看護実習チラシ作成

・似顔絵作成 3 名

・ステップアップ研修 No.1 「著作権について学ぼう！」オンライン視聴（2025. 11. 21）

・飯田一史氏講演会「いま若者はどんな本を読んでいるのか」参加（2025. 2）

・健康センター：ミニ図書館（半期ごと入れ替え）

・広報課：OC 当日タイムスケジュール作成、ふるさと進学ガイダンス広告作成、ルーラードイラスト作成・オススメ本紹介、腕章作成手伝い、学長挨拶用写真加工

・学園祭ポスター・パンフレット作成

・ハラスメントポスター作成

・似顔絵作成 1 名

<健康センター>

1. 健康増進活動（予防・啓発活動）

①学生定期健康診断時に学生ロビーにて“健康ひろば”を開設

日常の自分の健康に意識を向けてもらうため、いろいろな測定や健康情報に触れて考える機会とし、養護教育専攻学生によるパネル作成と展示・骨密度測定・体組成測定、看護学科 2・3 年生有志による血圧測定を計画、協力を得て実施した。学生・教職員が利用し、好評だった。

②提示等による活動

・新型コロナウイルス感染症・インフルエンザ・梅毒・熱中症・各種相談窓口案内・20 歳の無料歯科健診（飯田市より）、子宮頸がんワクチンキャッチアップ接種などの掲示

・学生メンタルヘルスカウンセリング日程の掲示、教職員ヨガ日程の送信

③健康センターだよりの発行

オクレンジャー配信：食欲不振・子宮頸がんワクチンキャッチアップ接種の情報など

④教職員令和 6 年度メンタルヘルス研修会

令和 7 年 2 月 27 日（木）、グラウンドと短大周辺にて実施。

「ヒーリングウォークの集い」～自然に包まれたキャンパスを、楽しく、うつくしく歩きませんか

講師：健康運動指導士 元オリンピック競歩日本代表 酒井浩文 氏 32 名参加

2. 学生及び教職員の健康診断等の保健管理

①学生定期健康診断の実施 4 月 24 日（水）実施

健康センター委員及び各学科・事務局より教職員の協力を得て実施。オリエンテーション日程には組み込まない日程を設定したことで、健康調査書の記入内容についての確認・面談等の時間ができたこと、入学や進級後の新生活に少し慣れた時期の健診であったため、落ち着いてできたのではないかと推測される。5月16日より、UNIPAにて健診結果閲覧開始した。

②教職員定期健康診断および特定健康診査、ストレスチェックの実施

- ・集団検診（中部公衆医学研究所による）は、11月8日（金）実施。昨年度から導入の40歳以上の方を対象とした腫瘍マーカー検査（CA19-9）を引き続き実施、胃の疾病及び異常の有無の検査の胃内視鏡（胃カメラ）検査の費用補助制度も継続実施
- ・ストレスチェックについて、健康診断と同時期に実施。中部公衆医学研究所にて分析、衛生委員会にて報告
- ・健康診断未受診者への声かけ健康診断後の受診勧奨等の実施

3. 学生及び教職員の健康相談及び保健指導

①医療機関情報の紹介、受診相談、受診勧奨など

②教職員健康診断後の受診勧奨、声かけやメール送信、様子伺い（受診後の様子の聞き取り）等の実施、ストレスチェック後の相談窓口案内の配布等。

③継続支援の様子

配慮希望（精神疾患・発達障害等）・心身不調・不安定で、健康センターを頻回利用し、継続的な関わりのある学生8名。話を聞く・昼食場所支援・休養・発作時対応・医療機関受診状況を聞くなどの対応をしている。

④学生メンタルヘルスカウンセリングの実施

4月～2月に計画、申込みによる実施。 外部カウンセラー対応：12件/9名

4. 学生および教職員の救急処置

①健康センター利用状況

外科系：切傷37、火傷10、擦過傷8、筋肉痛7、虫刺され6、捻挫7 など 98件

内科系：風邪症状32、気分不良24、頭痛13、生理痛9、倦怠感6、腹痛5 など 100件

相談：心身不調12、人間関係10、健康相談5 など 32件

その他：不安定56、談話14、生理用品等5、昼食支援3 など 96件

②呼び出し対応・緊急時搬送等

- ・呼び出しを受け現場へ駆けつけた 13件 （過換気発作・怪我・気分不良 等）
- ・病院搬送・救急搬送 0件
- ・保護者の迎えによる帰宅 5件

5. 災害及び感染症等の健康危機管理

①感染症報告

- ・新型コロナウイルス感染症 31名
- ・インフルエンザ 12名
- ・その他感染症（手足口病・感染性胃腸炎） 2名

②感染症予防活動

- ・令和6年6月28日付で拡大メール「学内における令和6年7月1日からの「コロナ」を含む感染対策について」通知により具体的な対策内容が示された。特に、マスクの着用は原則として各自の判断に委ねられた。体温モニター及び手指消毒はこれまで通り継続。
- ・消毒用アルコールボトル、アルコール除菌シート等の設置及び補充、行事日（入試・発願式・学園祭等）の貸出

- ・ハンドソープ補充 随時

6. その他の活動

- ①AED点検（5月）
- ②非常持出用リュック点検・入替（6月） 自衛消防隊救護係
- ③事務室の救急箱 点検・入替・補充
- ④救急箱の貸出（地域連携センター事業・ゼミ等）
- ⑥健康センター不在時の保健室対応依頼 →センター委員待機・掲示による事務室対応

【飯田女子高等学校】

<全日制課程>

1. 教育活動（教育方針・カリキュラムの特徴・変更点等）

[本校の教育方針]

本校は教育基本法並びに学校教育法に則り新しい時代に相応しい健全な家庭人有能な社会人として教養豊かな女性を育成することを目的とし特に仏教精神を基盤とした情操道義の教育に重点をおく。

学校目標に「和顔愛語 先意承問の精神」「B・A・S・E」（勉強・挨拶・掃除・笑顔を大切にする）を掲げるとともに、大切にしたい3つのことばとして「いのち・時間・ことば」（「いのち」＝かけがえのないいのちと、自分自身にかけられた願いを感じ取る。「時間」＝二度と戻らないこの時を大切にする。「ことば」＝時と場合に応じたことばの使い方をする。）を掲げた。これらの重点目標のもと、授業、行事、クラブ活動等様々な活動を通して教育方針の実現を目指した。2024年度の新たな取り組みとしては、「海外語学研修」としてオーストラリアシドニーへ11日間のホームステイを行った。初年度の参加者数は24名。また、学内完結型教育プログラム“拋”として、毎週木曜日・金曜日の16:00～21:00まで学習できる学内塾を導入した。初年度の入塾者数は70名。

2. 学習指導

学年が上がるにつれ多くの生徒が前向きな姿勢で学習活動に打ち込み授業への取り組みや学習習慣が身についてきている。業者テストを取り入れ、1・2年生全員対象に、実力診断テストを4月と8月の2回実施した。より継続的な指導ができるようデータの活かし方を模索中である。下校時間から20時30分まで、希望者による自主学習「夜ガク」も定着し、総合コース・進学コース隔てなく参加生徒の学習時間の確保・学習意欲の継続につながり、学力定着に確実に結びついた。ただし、今年度は学内完結型教育プログラム“拋”を導入したため、毎日の実施はせず、月火水の3日間とした。教員の資質の向上を図るために研究授業を実施するとともに、さまざまな校外の研修会に参加し本校ならではの授業形態の構築に努めてきた。全学年 iPad を利用し、教員も徐々に慣れてきた。ロイロノート ICT 学習の中心に展開できるめどがたった。今後、様々なサービスが出てくるが、学園としてどのような教育を行うか、どのようなソフトを使用するかを検討し、効率よく時代に合った教育活動ができるのか検討していくべきである。探究活動としては、進学コースはEクラスを1つのモデルとして、総合コースは家庭科を中心として実践してきた。しかし総合コースにおいては、人事の都合によりその継続が不可能な状況が続いているため、新たな方策の検討が急務となった。

3. 進路指導

概ね本人が希望する進路を実現しているようにみえる。しかし大学入学共通テスト受験者が15名であった。これは例年に比べてかなり減少した。また国公立大学合格者は3名であったことを考えると、途中で第一志望を断念して志望変更した生徒も多かったことも考えられる。国公立大学進学希望を断念する理由も分析して対策を考えていかななくてはならない。

その一方で近年の進路の傾向は、「一般選抜まで受験をする生徒の増加」「総合コースの生徒の中にも国公立大学希望者があらわれはじめている」「四年制大学進学者数の増加」という前向きな傾向もでてきた。特に四年制大学への進学者数は増加傾向にあり、以前は20%台だったが、令和2年度から30%台へと増加し、令和5年度には38%となった。高みを目指す生徒が増えているとも考えられる。

しかし悪い傾向もわかってきた。それは「専門学校への進学者数が以前から増加傾向にあった」ということである。平成29年度の25%から始まり、20%台をずっと保ち続け、令和3年度は29%となり、約3人に1人が専門学校へ進学していたことになる。

専門学校進学者増加の弊害として、「飯田短大への進学者の減少」が考えられる。特に令和4年度に顕著に表れている。専門学校進学を全て否定する訳ではないが、生徒と保護者による「安易な進路選択」と高校側の「安易な進路指導」の二つが原因であると考えている。もちろん専門学校の積極的な営業も原因の一つだ。特に愛知県の三幸学園には気を付ける必要がある。「定員が埋まり次第募集を停止する」こと

を生徒や保護者に煽り、早期の入学決断を迫る募集活動をしている。そのため三幸学園は愛知県の校長会で問題視されている。たぶん、今後もこのような専門学校は増加していくことが予想される。その対策も必要だと痛感した。

4. キャリア教育・探究活動

国際化、情報化の急速な進展により社会構造も急速にかつ大きく変革し、知識基盤社会のなかで、新たな価値を創造していく力を育てることが学校現場では求められている。2020年度から始まった大学入試改革により、大学入試は学力の3要素を「多面的・総合的に評価する」入試へと変わりつつある。これは、知識・技能の確実な習得はもちろん、それをもとにした思考力・判断力・表現力の向上、そして、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度の育成を目的としている。本校では、学校生活の全てが生徒たちにとってのキャリア形成の場であると考えているが、特にキャリアガイダンスや職場体験等を通してさまざまな職業を知り、仕事に対する意識を高めるとともに、自治体や企業の協力のもと生徒たちに様々な人との出会いや活動の機会を用意している。生徒たちは様々な人との出会いを通して視野を広げ、他者と協働することで人々の思いを知り、地域の魅力や課題に気づく。さらに、自分に出来ることは何かを考えることを通して地域や自分自身についての理解を深め、将来どのように社会に関わっていくかを考えて自らの進路を選択していく。現在、飯田市をはじめ飯田下伊那地域では、高校生と地域・大学・企業等をつなぐ事業に注力している。このような事業との連携は、社会で必要とされる力を生徒たちが実際に発揮するチャンスである。本校のキャリア教育では、生徒たちが活動を通じて得た知識や人々との繋がりを活かして自らの将来を自らの手で切り拓いていけるように、また、積み重ねてきた活動実績を用いて自信をもって入試に挑戦していけるように、生徒の今と将来を繋いでいく。学びの主役は生徒だが、その授業をデザインし、コーディネートするのが我々教員の役目である。生徒ひとりひとりのキャリア形成に向け、保護者や地域・企業の方々と更なる協力体制を構築していく。

1. 目標

確かな学力と豊かな人間性を併せ持つ総合的な生活力のある生徒を、地域社会と連携・協働して育成し、生徒の「今」を教科とつなぎ、地域社会とつなぎ、世界とつなぎ、未来とつなぐ。

2. 育てる力

- ・多様な人々の考え方や立場を理解し、意見を聞いて自分の考えを正しく伝えたり周囲と協力したりして様々なことに取り組む力。
- ・様々な体験を通して、社会規範やマナー等を学び取る力。
- ・学ぶことや働くことの意義を理解し、社会人や職業人として将来を設計する力。
- ・希望する進路の実現に向け、課題を明らかにし、それを解決するための計画を立て、実行する力。

3. 指導方針

- ・学校生活全般をキャリア教育の場と捉え、生徒ひとりひとりが主体的に取り組み、他者と協働して活動する機会を増やす。(HR活動、生徒会活動、クラブ活動、学校行事、授業、進路研究、ボランティア活動、検定取得等)
- ・教科指導や課外活動、特別活動など、各取り組みのつながりを意識し、卒業後を見据えた系統的な指導を目指す。
- ・地域や世界の現実や様々な課題に目を向け、自己の生き方について生徒自身が考えを持てるように努める。
- ・実習、職場体験、進路ガイダンス、キャリアガイダンス等は事前・事後指導を大切にし、基礎的汎用的能力の向上を目指す。
- ・家庭や地域社会、大学、産業界等の支援のもと、連携して体験活動を推進する。
- ・ロイロノート等アプリを活用した事前・事後学習(振り返り)を行い、生徒自身が活動を振り返る資料とするとともに次年度の取り組みに生かす。

4. 取り組み(キャリア教育・探究活動推進係主催)

キャリアガイダンスについては、生徒の参加の利便性等を考慮し、平日の授業時間を活用し、年間を通じ・短時間・回数を増やして実施した。

①進路ガイダンス(進路指導委員会と連携)

- 6/4 1、3年生進路ガイダンス、2年生飯田短期大学見学
- 6/6 進路相談会

- 6/22 保護者対象進路ガイダンス
 〈講師〉飯田短期大学 事務局長 矢澤庸徳 様、学務部学生課長 渡邊千春 様
 〈内容〉飯田短期大学の学科説明、在学生のコメント、入試制度、卒業後の進路、費用説明など
- 7/23 1年生 進学希望者対象ガイダンス ※夏休み特別指導開講式にて
 〈講師〉東進衛星予備校飯田上郷校 南信統括 東城裕介様 校長 根本剛志様
 〈内容〉進路希望実現のために、1年生の夏休みにすべきこと
- 7/27 2年生 進学希望者対象ガイダンス ※夏休み特別指導開講式にて
 〈講師〉日本福祉大学 入試広報課進学アドバイザー 田中良二 先生
 〈内容〉これからの受験勉強について
- 11/5 1・2年生 進路学習
 〈講師〉株式会社ライセンスアカデミー
 〈内容〉1年生：大分野別説明会
 2年生：小分野別相談会
- 3/5 1年生 進路学習(雪のため休校、延期)
 〈講師〉ライセンスアカデミー 加藤元朗 様
 〈内容〉働き方&収入仮想体験ワーク、小分野別相談会
- ②その他ガイダンス等
- 5/16 市議会議員との座談会
 〈訪問〉飯田市議会議員6名
 〈内容〉高校生と市議会議員による子育てについての座談会
- 5/20 信州つばさプロジェクトに参加した生徒による留学報告会
 〈生徒〉本校生徒2名
 〈内容〉7日間の研修記録と留学に関する発見・体験の報告(台湾・カンボジア)
- 8/6 医療職集中ガイダンス
 〈講師〉健和会病院 10職種 of 先生方
 〈内容〉医療事務・放射線技師・薬剤師・看護師・管理栄養士・医療ソーシャルワーカー・介護士・臨床検査技師・リハビリ・臨床工学技士 の仕事内容など
- 10/15 JICA 海外協力隊ガイダンス
 〈講師〉JICA 海外協力隊 渡辺崇人様 (ナミビア国赴任中)
 〈内容〉JICA 海外協力隊として働くきっかけや海外での体験談を語っていただく。
 現地と zoom で繋ぎ、現地の学校の様子を中継しながらガイダンスを行った。
- 12/5 手話を通じてつながる心～聴覚障がい者と一緒に手話体験～
 〈講師〉大澤翔様
 〈内容〉聴覚障がい者を講師として、手話や空文字、ジェスチャー、読唇術など様々なコミュニケーションツールを使った会話を体験。
- 3/3 受験座談会
 〈講師〉卒業生3名
 〈内容〉受験を終えた卒業生3名による受験体験記・お悩み相談
- ③学輪 IIDA 共通カリキュラム高大連携フィールドスタディ説明会開催および参加
 地域を知る・大学の学びを知る・様々な人との出会いを通して視野を広げるための学びを紹介。
 大学生と一緒に地域を学ぶ魅力を伝えた。(飯田市と連携) 今年度は4名が参加。

④職場体験案内

- I : 医療職体験 (健和会病院主催)
- II : 福祉の職場体験 (長野県社会福祉協議会主催)

⑤探究活動 <実施例>

- 4~8月 「環境に配慮した家具づくり」イイダアックス (高森町)
進学コース3年1名が環境に配慮した家の設計及び模型を作成。高森町の助成を受けて家具づくり。
- 5~3月 「カワガラスの分布・生態調査」
一般財団法人長野県科学振興会科学研究費助成金を受け、カワガラスの生態調査を行った。夏休みに10地点の分布調査を行い、下伊那地域のカワガラスの生息する河川を明らかにした。
- 7/15 「防災謎解き脱出ゲーム」(飯田市)
進学コース3年1名が上郷公民館で実施。災害時の疑似体験を通して防災に対する知識・意識の向上を目的として実施。
- 7/15 「高校生の子育てイメージアップ大作戦！」(飯田市)
進学コースEクラス3年生1名が飯田短期大学の協力を受け、市内の子育て世代と高校生の交流を通して、若者世代が子育てにポジティブなイメージを抱くことを目的としてイベントを開催。
- 8/9 3年探究活動最終発表会
- 11/30, 12/1 マイプロジェクトアワード2024 長野県 summit (オンライン開催)
進学コースEクラス1年生3名が参加。
- 2/6. 13 1.2年探究活動最終発表会
- 2/25 「高校生の子育てイメージアップ大作戦！」(飯田市)
7月のイベントの反省を生かし、今年度2回目を実施。

5. 中高・高大連携等

飯田女子短期大学との高大連携授業

- ・「心理学」3年生受講 (飯田女子短大進学時の単位として認められる)
- ・本校「家庭科」への出張授業

- 1年次: 「子育て支援」講座 宮内愛先生 (2時間×進学1クラス)
- 2年次: 「子育て支援」講座 宮内愛先生 (2時間×5クラス)
- 2年次: 「家庭看護」講座 神澤絢子先生 (2時間×5クラス)
- 2年次: 「自然保育」講座 中本貴規先生 (2時間×5クラス)
- 3年次: 「スポーツ栄養学」調理実習 友竹浩之先生 (2時間×4クラス)
- 3年次: 「子育て支援」講座 宮内愛先生 (2時間×1クラス選択授業)
- 3年次: 「子育て支援施設(わいわい広場)」体験実習 宮内愛先生 (2時間×1クラス選択授業)

6. 生徒指導

①講演会

- ・4月12日(金)着こなしセミナー 対象: 1学年152名
講師: 株式会社トンボ 高貴菜穂氏 (視聴覚室にて実施)
- ・4月11日(木)スマートフォン講演 対象: 1学年152名
講師: セイフティーネット総合研究所 南澤信之氏 (視聴覚室にて実施)
- ・7月12日(金)性被害防止講演 対象: 1学年152名
子どもの性被害防止教育キャラバン隊県警スクールサポーター 飯田警察署 原田登志夫氏

②夏制服(長袖)のデザイン・値段の確定。2025年度より着用。

③テストバッテリーの実施(1年生)

④学校生活アンケート実施

3 学年：年 2 回（7 月・11 月）。1，2 学年：年 3 回（7 月・11 月・1 月）。
アンケートの実施にあわせて、ショート面談を行った。

⑤立ち番指導、校内外巡視

定期的に立ち番指導を実施。挨拶奨励と着こなしの確認を行う。定期テスト期間等に校内外の巡視を行い、生徒観察を行う。

⑥交通指導

春に登校時の交通安全指導を行った。また、危険車両が発生した際にも交通指導・見守りを行った。

7. 課外活動

①生徒会活動

- ・生徒主体の活動が行われた。7 月に第 65 回女子高祭が「華楽風琉～一生でイチバン輝く夏～」というテーマのもと開催された。コロナ前の文化祭の形に近い形で、全校生徒や来校されたお客様に楽しんでいただける文化祭を行えるよう、生徒会役員会が計画を進めた。保護者だけでなく生徒の友人も招待し、全校生徒協力の下おこなわれ、精一杯楽しんでいた。
- ・図書委員会では、学校司書の指導の下、毎月特集を組んで本の紹介をしたり、図書新聞を発行したり、より多くの生徒に図書館に親んでもらえるよう取り組みが行われた。例年同様、図書館前の廊下を季節に合わせて飾り付けをし、より多くの生徒に図書館を利用してもらえるよう工夫を凝らした。読書旬間では委員による積極的な呼びかけをおこなったが、昨年度に比べ図書館利用者は伸び悩んだ。1 月に百人一首大会を実施した。
- ・奉仕活動委員会では、新型コロナウイルスが 5 類に移行した一昨年以來、校外でのボランティアの募集が微増した。そのような中で、依頼のあったボランティアに多くの生徒が参加できるよう紹介し、生徒の主体的な取り組みが見られた。
- ・環境整美委員会では、日々の清掃活動に意欲的に取り組めるように呼びかけを行い、各行事前にはポイントを絞って清掃を行うことで、来校されたお客様が気持ちよく過ごせるよう環境作りを行った。
- ・保健委員会では新型コロナウイルスやインフルエンザなどの感染症対策として、手洗いを呼びかけたりハンカチを持参しているか確認したり、校内の衛生管理を生徒自身も取り組めるよう活動を行った。

②ボランティア活動

- ・生徒会奉仕活動委員会がボランティア活動を紹介。多くの生徒が主体的にボランティア活動に参加している。一昨年度からコロナが 5 類になったため、ボランティアの募集も多く、前年より延べ人数で 200 名弱の参加者が増加した。
- ・生徒は、ボランティア活動を通して、年齢の異なる人々、価値観の異なる人々、言語や文化が異なる人々など、様々な人々と関わった。多様な人たちと協働しながら活動を行い、コミュニケーション能力を高めた。また、自分の意思を表現することの難しさを体験するとともに、相手の思いを受けとめることの大切さを実感し、視野を広めている。

③クラブ活動

- ・運動系 7、文化系 16、同好会 2。活動時間や場所等の制限もなく、ほとんどの競技、団体がコロナ前と同じ状態で試合・発表等が開催された。

全国大会出場	弓道(インターハイ＝団体・個人、選抜＝団体・個人)、写真、書道、チアリーディング (部門優勝)
北信越大会出場	弓道(インターハイ＝団体・個人、新人＝団体・個人)、水泳、空手
インターハイ 県大会出場	弓道(団体：優勝、個人：優勝)、ソフトボール、バレーボール、バドミントン (団体・シングル)、ソフトテニス (団体)、卓球 (団体・ダブルス・シングルス)、水泳、空手

新人戦県大会出場	弓道(団体：優勝、個人：優勝)、卓球(団体・シングルス)、バドミントン(団体・ダブルス・シングルス)、ソフトボール、ソフトテニス(団体・個人)、水泳、
文化系県大会結果	写真(優良賞、奨励賞)、吹奏楽(B編成金賞)、邦楽(優良賞)

8. 地域活動(地域との連携・公開講座・PTA活動等)

①文化系クラブを中心に参加した。

邦楽	高森町下市田「桜を愛でる会」 麻績の里桜祭り 野底山森林公園さくら祭り 上郷公民館「ふれあいさわやか音楽祭」 丸山地区「観月の夕べ」 上郷高齢者学級 座光寺地域新年顔合わせの会 座光寺地域文化祭 北田遺跡公園月見の調べ
ギターマンドリン	上郷公民館「ふれあいさわやか音楽祭」、座光寺地域文化祭
吹奏楽	座光寺地域文化祭 JAみなみ信州およりてファーム周年祭 令和6年度長野県経営者協会飯田支部芸術鑑賞会
合唱同好会	上郷公民館「ふれあいさわやか音楽祭」
チアリーディング	道の駅みなみ信州とよおかマルシェ みなみ信州安心安全フェスティバル 阿智智里東地区文化敬老祭 とよおかまつり 南信州駅伝大会 飯田市職員労働組合現業評議会 旗開き 令和6年度長野県経営者協会飯田支部芸術鑑賞会
茶道	麻績の里桜祭り 高森町松岡城址新緑の会 天竜峡マルシェ 飯田市公民館主催日本語教室「わいわいサロンII」 いいだ人形劇フェスタ2024
手芸	千代公民館文化祭
調理	野底山森林公園さくら祭り 野底山森林公園もみじ祭り
生徒募集	飯田りんごんに参加(バレー・ソフトボール・チア+有志生徒+教員 総勢約70名) 大賞受賞

②家庭科の授業の中で、地域の方に講師を依頼し授業を行っていただいたり、地域の保育園や幼稚園、子育て支援拠点にて実習を行ったりする中で、地域とのつながりを持った。

- ・飯田市による高齢者福祉講座(2時間×1年総合コース5クラス)
- ・飯田市社会福祉協議会聴覚障害者の手話体験講座(2時間×1年総合コース4クラス・進学コース2クラス)
- ・上郷図書館司書による絵本の読み聞かせ講座(2時間×2年総合コース5クラス)
- ・上郷図書館司書による紙芝居・わらべうた講座(3年選択者)
- ・飯田市立座光寺保育園……2年総合コース5クラス1回ずつ実施
- ・認定こども園慈光幼稚園……2年総合コース5クラス2回ずつ
- ・認定こども園聖クララ幼稚園……「こどもの発達と保育」(3年選択者)
- ・認定こども園聖クララ幼稚園……「こどもの発達と保育」(3年選択者)夏休み預かり保育体験実習
- ・飯田市立上郷西保育園……「こどもの発達と保育」(3年選択者)3回
- ・飯田市立上郷西保育園園長との座談会……「こどもの発達と保育」(3年選択者)1回
- ・子育て支援施設わいわい広場……「こどもの発達と保育」(3年選択者)1回
- ・飯伊調理師会による魚のさばき方講座(2時間×3年総合コース4クラス)
- ・飯田市食生活改善推進員によるバランスのよい食事(2時間×1年総合コース4クラス・進学コース1クラス)
- ・JAみなみ信州女性部による「郷土料理」講座(2時間×3年総合コース4クラス)

③PTA研修旅行は12月7日に愛知県方面を行先として、中部国際空港見学・INAXライブミュージアムにてタイルリース作りなどを行った(参加者29名)

- ④学校公開授業を今年度新たに実施。実施期間は、1回目：5月27～29日、2回目：11月6～8日。該当日の時間割を示し、保護者の都合のよい時間を選んで申込みをしていただき、参観する形とした。
- ⑤同窓会主催行事として、母校成人式開催を改め、「20歳をお祝いする会」を1月11日（土）午後開催。198名の卒業生が参加。
- ⑥消費者教育として、1月21日（火）～1月30日（木） 飯田市消費生活センター「賢い消費者になるために」講座（2時間×1年生5クラス）は昨年を引き続き実施。
- ⑦金融教育として、2月3日（月）～2月7日（金）八十二銀行「金融リテラシー」講座（2時間×1年生5クラス）実施。
- ⑧幼児教育分野進学希望者が企画運営をする「こどものもり」を2月8日（土）9:30～12:00に開催。選択授業3年生18名・ボランティア3年生2名・2年生15名・ボランティア1年生18名・吹奏楽クラブ・チアリーディングクラブ・調理クラブ・人形劇クラブが携わり、総勢70名でもてなした。当日は49組・約83人が来校。参加生徒にとって学びが実際の場で生かせる大変貴重な機会となった。

9. 教育環境の整備

①学習環境の充実

- ・「夜ガク」として下校時間から20時30分まで希望者による自主学習が認知され学習時間の確保につながっているが拠所の導入により次年度は「夜ガク」は行わない予定。
- ・学力把握のために業者テストを取り入れ1・2年生全員対象に実力診断テストを4月と8月の2回実施した。
- ・ロイロノートの基本的な使用は職員にも浸透した。さらなるスキルアップが必要。映像教育やAIを利用した教育システムを検討していく。

②設備の充実

- ・WiFi環境など少しずつ整備している。校務の効率化を促し生徒指導の時間を増やしていく。ずっと示しているが、学園としてのスケールメリットを活かしておらず明らかに効率が悪い。こういう場面でこそ学園として動き、学園全体でもICT設備もふくめて連携していき教育環境の充実を図らなければ、今後国が主体で行うGIGAスクール構想の中の教育活動において他の教育機関から大きく後れを取る懸念がある。毎年報告しているが、改善の様子がうかがえず残念な結果である。

10. その他

- ①学校評価アンケートを、5月27日配信・9月20日配信・1月23日配信し、生徒や保護者から寄せられた声を全職員で共有した。その上で各部署で改善策を検討し、今後の方向性をオクレンジャーにて各家庭に伝え、理解と協力を求めた。
- ②学校関係者評価としてアドバイスをいただいている学校評議員会を、6月27日・10月29日・3月22日の3回実施。3月には各部署ごと学校目標に対する自己評価を行うことで、次年度に向けて課題を明確にした。
- ③年間を通じて生徒募集活動に力を入れ、中学生とその保護者に向けて本校の魅力を発信した。
 - ・例年通り「IIJ0アピール隊」を立ち上げ、中学生の前に立ち、受付・案内・学校説明等、本校生徒が主体的に取り組める機会を設けた。
 - ・中学生及び保護者が来校する機会にアンケートを取り、集計・分析を行った。その結果、今年度においては中学生の進路決定時期がかなり後ろ倒ししてきており、夏の体験入学参加者減との相関関係が

見えてきた。中学校における進路指導が中学生の主体性を尊重する傾向にあり、中学校主導の進路決定から、中学生本人や家庭主導の進路決定へと移行していることも要因の一つと考えられる。そこで次年度は、進路決定権を握っているであろう保護者へのアプローチ方法を検討していく。

- ・学校ホームページは適宜リニューアルや更新に努めるとともに、昨年度に引き続きは学校に来校しなくても魅力を発信できるように思案し、「開かれた学校」のアピールに心がけとくに「女子高ニュース」の最新記事のアップの頻度を向上させるなど係の努力で内容を充実させた。他の広報媒体としては、パンフレットの認知度が高かった。また、数年来作成している募集行事告知ポスターであるが、今年度は学校長をモチーフとしたイラストにしたことで視認性が高まったのか、認知度が高かったことは昨年度までとの有意差であるといえたので、今後も視認性が高いデザインを考えていく。
- ・学内完結型教育プログラム「拠」運営会社である(株)学びの森と連携し、各種説明会で「拠」の説明を担当していただくとともに、対面で2回、オンラインで1回中学生向け「拠体験会」を実施した。また、中学生保護者向けにオンラインで「拠 night 説明会」を実施した。
- ・今年度より導入した学内完結型教育プログラム「拠」、海外語学研修の2プログラムを「新教育プログラム」と位置づけ、パンフレット、リーフレットなどを用いたPRに力を入れた。中学生・保護者対象アンケート結果からも、これら2プログラムへの関心の高さがうかがえた。
- ・今年度は初めての試みとして、2回の進学説明会を通信制と同日開催とした。
- ・入学者の実数が減少したことは事実として次年度の活動のブラッシュアップをはかる材料とする。一方、入試広報関連行事の参加人数に対する受験者数の割合は過去6年間で最高値を記録した。本校への関心があらかじめ高い層の獲得には成功したといえる。今後は、本校への関心が低い層をいかに入試関連行事に誘導できるか、その導線づくりが喫緊の課題であるといえる。

④月に一度、自立できる生活実践力を身につける目的で「お弁当の日」を設け、家庭科の授業で学んだことを実生活の場で生かす機会とした。今年度は9回実施。保護者の理解や協力が十分得られて、生徒も教職員も取り組むことができた。年数を重ねることで、惰性的な取組みにならないよう、更なる充実に向けて改善策等も必要。

⑤国際教育では、今年度初の試みとなる「海外語学研修」をオーストラリアのシドニーで実施した。期間は夏休み中の8月4日から14日の9泊11日で、参加人数は24名（1年生：4名、：20名）、引率は学校長と英語科教諭1名であった。参加した生徒たちはホームステイをしながら、現地校に通い、生きた英語を学んだ。休日はホストファミリーと観光を楽しんだ。現地校での最終日には「日本文化プレゼンテーション」を行い、6つのグループで飯田市や日本の文化に関する発表を行い、好評を博した。参加した生徒たちは国際的な視野を身につけると同時に、日本の良さもあらためて認識することが出来、収穫の多い語学研修であった。

⑥長野県教育委員会主催「信州つばさプロジェクト」の参加者に1年生2名が選抜され、「JENESIS 韓国コース」で韓国に1週間（11/3～11/9）、「SDGs 探究コースⅡ」でカンボジアに1週間（2/4～2/10）にわたる研修に参加した。それぞれの国で日本とは異なった気候風土や文化を体験し、ホームステイや現地学生との交流をした。

⑦校内職員研修

- 6月4日（火）「高校生人権教育研修・連絡協議会」@県総合教育センター（参加者：湯沢保教諭）
- 6月17日（月）「下伊那特別支援研修会」@飯田合同庁舎（参加者：小林奈・中島教諭）
- 7月29日（月）「不登校支援について考える研修会」@飯田合同庁舎（参加者：服部・吉川教諭）
⇒伝達研修会 10月9日（水）服部・吉川教諭発表
- 7月28～30日（日～火）「真宗大谷派学校連合第54回新任職員研修会」@京都・東本願寺
（参加者：高松・青木・荒川・尾崎・松村文・麻植教諭）

- 9月2・3日（月・火）「高等学校教育課程研究協議会」@伊那市
（参加者：小林俊・貫井・新津・荒川・高松・佐々木教諭）
⇒伝達研修会 10月23日（水）高松教諭発表（情報）
- 9月19・20日（木・金）「第57回中部地区私学教育研修会」@松本大学（参加者：14名参加）
⇒伝達研修会 11月6日（水）下平教諭発表（教育課程）
⇒伝達研修会 11月13日（水）西村教諭発表（進路指導）
- 11月14～16日（木～土）真宗教育研修会@愛知県（参加者：北條教諭）
- 12月25日（水）「進路指導研修会“最新入試情報・変化する入試に対応した指導体制について”」@本校
（講師：ベネッセコーポレーション濱田様 参加者：全職員）

<通信制課程>

1. 総括

10月に伊那西学習センターを開設した。伊那西高等学校からの転入生2名(高2相当)が伊那西学習センターに通学しており、後期の生徒数は2つの施設を合わせると在籍91名(休学4名)となった。

(1)学籍変動

新入	20名	飯田下伊那中学女子生徒の2%越の割合(開設5年目以降継続)
転入	7名	2名は伊那西学習センターへ通学(伊那西高等学校から10/1転学)
編入	0名	
課程変更生	7名	
転学	1名	休学から6/30付で転学(単位修得が困難なため)
休学	5名	
復学	1名	休学していた生徒が10月1日付けで復学
退学	2名	一身上の都合(1名)進路変更(1名)
卒業	32名	前期1名、後期31名

(2)施設ごとの学籍変動

飯田女子高等学校

		前期									後期								
		前年度末在籍	新入生	転入生	編入生	課程変更生	転学	復学	退学	卒業	前期末在籍	新入生	転入生	編入生	課程変更生	転学	復学	退学	卒業
高1相当	週3	1	17	0	0	0	0	0	0	0	10	0	2	0	3	0	0	0	0
	週1	0	3	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	休学	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	21									26(休学3)								
高2相当	週3	20	0	0	0	0	0	0	1	18	0	1	0	2	0	0	0	0	0
	週1	9	0	0	0	0	1	1	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	休学	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	29									32(休学1)								
高3相当	週3	6	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	週1	23	0	1	0	2	0	0	1	26	0	1	0	0	0	0	0	0	27
	休学	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	33(休学1)									31								
合計	83(休学1)									89(休学4)									

伊那西学習センター(2024年10月開設)

		前期									後期								
		前年度未 在籍	新生	転入生	編入生	課程 変更生	転学	復学	退学	卒業	前期末 未在籍	新生	転入生	編入生	課程 変更生	転学	復学	退学	卒業
高2 相当	週3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	週1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
	休学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	0									2								
合計		0									2								

(3)伊那西学習センターの開設(10月1日付)について

開設8年目を迎えた今年度は新たに伊那西高等学校内の施設で「伊那西高等学校と他校からの転入生」と「上伊那地域の中学からの新生が学べるようにする」ために、教育連携協力施設として「伊那西学習センター」を開設した。開設にむけて主な事業は以下の通りである。

- ①飯田女子高等学校と伊那西高等学校との教育連携協力施設の関する協定書締結(4月)
- ②伊那西高等学校にて運営委員会を実施した。各校の校長、教頭(飯田女子は通信制教頭)、事務長、伊那西学習センター長、運営責任者(有馬)が出席(5月)
- ③「伊那西学習センター」を教育連携協力施設として、長野県教育委員会(県民学びの支援課)私学振興係へ申請書提出(6月)
- ④伊那西高等学校の全教員の飯田女子高等学校(通信制課程)の見学と研修会を実施(6月)。数回に分けて研修会を実施
- ⑤伊那西学習センター(於伊那西高等学校)の中高連絡会実施(9月)
- ⑥伊那西学習センター長による中学校訪問(上伊那・諏訪・岡谷地区)
- ⑦伊那西学習センターでの教育活動開始(10月)
伊那西高等学校から本校に転入する2名(2年生相当)の生徒が伊那西学習センターへの通学生として学習活動を開始
- ⑧JR東海へ学割証明発行認可(3月)

(4)校務支援教務システムの導入(通信制に特化したシステム)

生徒数増加に伴い、IT化により業務の合理化を図るために、校務支援教務システム「Student Mypage Lite」を導入した。それによりスクーリング、レポート、試験の業務運営は一括管理することが可能となった。更に、生徒と保護者はマイページで学習(レポート・試験)の進捗状況を確認でき、自ら学習状況を管理できるようになった。また、日常の登下校もQRコードの読み取りにより容易に管理できるようになった。更に生徒指導要録と調査書も作成しやすくなった。このシステムの導入にともない生徒と保護者への連絡もオクレンジャーからこのシステムに変更した。

(5) 施設の整備(生徒昇降口の改修)

生徒昇降口の扉を押し引き型からスライド型にしてスムーズに出入りができるようにし、ガラス部分を多くし、暗く感じる昇降口を明るくした。

3. 前 期

(1)教務関係

スクーリングは火曜日 13 回・木曜日 13 回・金曜日 9 回実施した。そのほかの活動は以下の通りである。

月	日	曜	内 容
4	9	火	新入生・転入生・課程変更生オリエンテーション
	11	木	前期入学式(午前)在校生オリエンテーション(午後)
	16	火	前期始業式
7	30	火	単位認定試験<~8/2(金)まで>
8	2	金	単位認定試験最終日
	6	火	単位認定試験追試験<~9(金)まで>
	19	月	単位認定試験追々試験<~20(火)まで>
	31	土	後期入学試験なし(出願者がいないため)
9	3	火	前期終業式
	6	金	保護者懇談会・履修登録<~18(水)まで>
	11	水	前期卒業式(1名)

(2)特別活動

南信地区生徒生活体験発表会では1名が「優秀賞」を受賞し、県生徒生活体験発表会(駒ヶ根市赤穂公民館)に出場することが決定した。今年度は新たに茶道体験と県外への名古屋港水族館への日帰り旅行を企画した。

月	日	曜	内 容	備 考
5	8	水	釈尊降誕会	
	31	金	茶道体験	31名参加
7	8	月	映画鑑賞	33名参加
	23	土	1・2組進路学習	10名参加
9	14	土	南信地区高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会 (下諏訪総合文化センター) 学校代表2名参加	
	25	水	名古屋港水族館への日帰り旅行	38名参加

4. 後 期

(1)教務関係

スクーリングは火曜日 12 回・木曜日 10 回・金曜日 11 回実施した。そのほかの活動は以下の通りである。

月	日	曜	内 容
10	8	火	転入生・編入生オリエンテーション 在學生オリエンテーション
	15	火	後期始業式
	16	月	編入学オリエンテーション
1	23	木	第 1 回入試
2	3	月	単位認定試験<～6(木)まで>
	10	月	単位認定試験追試験<～14(火)まで>
	17	月	単位認定試験追々試験<～18(火)まで>
3	3	月	後期終業式
	4	火	後期卒業式
	5	水	保護者懇談会・履修登録<～14(金)まで>
	12	水	第 2 回入試

(2)特別活動

南信地区生徒生活体験発表会で「優秀賞」を受賞した生徒が県生徒生活体験発表会(駒ヶ根市赤穂公民館)に出場し優良賞を受賞した。1月に実施した「1・2組進路学習」は、講師に進学は飯田コアカレッジ校長の牧島晃先生、就職は若者サポートステーションの中島和子様を依頼して行った。「パーソナルカラー診断」は飯田市公民館と連携して講師を依頼し、結スクエア内の飯田市公民館で生徒だけではなく保護者も含めて実施した。

月	日	曜	内 容	備 考
10	7	土	長野県高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会 (駒ヶ根市赤穂公民館)	1 名
11	26	火	報恩講	
12	18	水	クリスマス会	34 名
1	14	木	1・2 組進路学習	15 名
1	28	火	パーソナルカラー診断(飯田市公民館)	21 名
2	26	月	2 組進路ガイダンス(保護者、生徒対象)	27 名

5. 進路状況(卒業生 32名)

年々在学中に進路を在学中に決めたいという生徒が増えてきた。各校から送られる募集要項は通信制宛での指定校推薦の要項もあるが、全日制に送られる指定校推薦の要項には「課程、コース等不問」、「一部の学部学科には全日制課程とあるが一部の学科にはその指定がない」という記載内容の学校が増えてきた。通信制から指定校推薦も受験が可能となったので、生徒への進路指導と全日制との調整を図るために内規を作成した。

進路		人数	進路先
進学 16名	大学	4名	<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋学芸大学 管理栄養学部管理栄養学科 ・名古屋女子大学 家政学部 生活環境学科 ・鶴見大学 文学部ドキュメンテーション学科 ・人間環境大学 総合心理学部総合犯罪心理学科
	短大	5名	飯田短期大学 (看護学科(2)・幼児教育学科(2)・生活科学学科生活科学コース(1))
	専門	7名	<ul style="list-style-type: none"> ・飯田コアカレッジ IT ビジネス学科(2) ・日本工学院八王子専門学校 デザイン学科インテリアデザインコース ・代々木アニメーション学院 クリエイター学部 マンガ科 ・日本デザイナー芸術学院 ビジュアルデザイン学科 キャラクターデザインコース ・専門学校 桑沢デザイン研究所 ・東京スクールオブミュージック&ダンス専門学校 音楽テクノロジー学科音響&サウンドデザインコース ・桑沢デザイン研究所 VDビジュアルデザイン専攻
就職		7名	<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社ピーエーイー ・有限会社 柚木元・ ・株式会社みつばクリーン ・夏目光学株式会社 ・嘉山建工有限会社 ・南信高森開発 株式会社 (高森カントリークラブ)社 ・株式会社 エフプラス
その他		9名	アルバイト(4名)・家居(2名)・未定(3名)

6. 募集活動

(1)学校説明会について

(1)学校説明会について

①本校での説明会について

今年度は全日制的進学相談会と同日(11/16と12/14)に2回実施した。保護者と生徒合わせて55名(伊那西学習センター希望者も含む)の参加申込者となり、本校の通信制の理解においては有効であった。来年度も同様に実施したい。

②南信教育事務所主催の合同説明会について

伊那会場では「飯田女子高等学校(通信制課程)伊那西学習センター」で参加した。昨年より相談者が増え、終始対応する状況であった。

飯田会場では、今年度は2日間で14件と倍増。内5件が1,2年生であった。早めに情報を得て今後の進路に生かしたいという保護者、本人の意向であった。本校への進学を選択肢に加え、真剣に相談する親子の姿を見ると、生徒募集の大きな可能性を感じる。通信制の説明を希望する生徒は様々な背景があり、理由も多様化している。情報化社会でも、保護者や生徒と直接話ができる対面の相談会は重要である。

月	日	曜	内 容
10	17	木	ほんわか相談会<上伊那地区不登校生徒進学相談会(伊那市合同庁舎)>
	28	月	ほっこり相談会<飯伊地区不登校生徒進学相談会(飯田市合同庁舎)>
11	11	月	ほっこり相談会<飯伊地区不登校生徒進学相談会(飯田市合同庁舎)>
	16	土	第1回通信制説明会(本校)
12	14	土	第2回通信制説明会(本校)
※上記以外に新入・転入・課程変更生の希望者には随時学校説明と個別相談を実施			

(2)学校説明・個別相談件数について()は前年度件数(相談件数であり入学者数とは異なる)

新入生	転入生	課程変更生	編入生
23件(46)	9件(15)	7件(10)	0件(2)

(3)2025年度受験者数について

入 試	第1回(1/23)		第2回(3/12)		入学予定者	
	専願	併願	専願	併願	専願合格	併願合格
飯田女子高等学校	12	4	3	1	15	4
伊那西学習センター	0	0	2	0	2	0
小 計	12	4	5	1	17	4
合 計	16		7			

※第2回入試併願受験者1名不合格(出願辞退)

【伊那西高等学校】

伊那西高等学校は、今年度末で40年目を終えることになる。校長、教頭、事務長と管理職が全員入れ替わり、その意味でも節目の年となった。

令和6年度は、次に示すような重点方針のもと、諸施策に取り組んだ。

- (1) 生徒数の確保
- (2) 教育の質の向上
- (3) 生徒に対する支援の充実
- (4) 地域貢献・地域連携活動の推進
- (5) 進路支援の強化・充実
- (6) 施設、機器の充実

以下、重点方針別に報告する。

(1) 生徒数の確保

R7年度入試から募集定員を175名から170名とした。入試区分別の受験者数、合格者数、入学者数は以下の通り。

	第1回推薦入試	第2回推薦入試	一般入試	合計
受験者数	89名	4名	35名	128名
合格者数	89名	4名	35名	128名
入学者数	89名	4名	35名	128名

※第2回推薦入試は、公立前期選抜発表後に出願可能としてある。

※一般入試は、普通コースと進学コース両コースを募集する。ただし、進学コース志願者のうち、「普通コースを第2志望とする」意思を示した受験生は、普通コースの入試基準を充たしていれば普通コース合格となる。(今年度3名が該当)

※一般入試では、学力的に心配な受験生が若干名いたが、全職員でバックアップすることを確認し、全員合格とした。

※R6年度入試から、併願入試を止め、すべての入試方法を「専願」としている。

◎充足率=75.3%

中学3年生の生徒数は前年度より幾分増加したが、中学3年生女子数は減少している中での苦しい戦いとなった。前年度の公立高校定員割の影響もあり、第1回推薦入試の受験者数が、昨年度104名⇒今年度89名(後の2回はほぼ変わらない)となり、これが昨年より受験者総数が減った原因と考えられる。また、昨年度同様に、併願入試を行わなかったことは、周囲の公立高校の状況を考えると間違いではなかったと思われる。

生徒募集委員会を中心に、中学生に対する広報活動を積極的に行った。インターネットでの広報は、○ホームページの充実 ○生徒会によるSNS(X, Instagram, TikTok)への投稿の2本立て。

募集活動においては、年度初め「通年の募集活動」という目標を掲げ、9月の一日体験入学を皮切りに「オープンスクール」「進学コース説明会」「進学相談説明会」と全てのイベントにおいて「狙い」「内容」を明確したことで概ね達成できた。加えて今年度立ち上げた「伊那西宣伝部」も、募集活動の新たなエッセンスとなった。また、上記イベント以外に「伊那西単独の中学校の進路講話」を開催して下さる中学校もあった。校長講話とは違う角度で、担当の教員や在校生が話すことで、中学生に「伊那西」を知ってもらう契機になったと思う。次年度以降もより多くの中学校で開催してくれることを願う

(2) 教育の質の向上

通常の授業については、生徒の多様なニーズに応えるべく、「演習科目」や「選択授業」を多数取り入れ、

進路に直結するような授業展開を図った。また、学力的に苦しい生徒を対象とした「補習」の実施や、きめ細かな習熟度別授業など、多様な生徒に対する取り組みを深化させた。特に「学び直し」に着目し、生徒が個の目標を到達するための基礎固めをしたいと考え、実施してきている。また、全校がタブレット端末を用いての授業を受講できることになっているので、授業での利用はもちろんのこと、クラスでの活動やクラブ活動など、多様な面での活用ができています。電子黒板やプロジェクターを利用した授業も増え、視覚や聴覚を刺激しながらの授業展開とすることで、生徒の授業に対する取り組みがより一層深まり、理解度も増した。来年度からはロイロノートを導入し、更に生徒の現状に合ったICT教育を提供できると期待している。

コロナ禍を受けて、ZOOMやYouTubeを用いての遠隔授業や行事を行うことにも積極的に取り組んだ。オンライン授業の限界を理解しつつも、不登校傾向の生徒に対する指導や、天候の悪化などにより登校に支障が生じた場合などの、有用性を利用していかなければならないと思っている。中教審の答申あるいは法改正より、オンラインでの受講も出席と見なすという方向性が示されている、それに沿った形で、本校としてのガイドラインの外郭を整えることができた。

令和4年度から開始したニュージーランド留学が軌道に乗ってきた。今年度は、1月から長期留学に1年生1名が参加している。7月～9月の中期留学には、1年生1名、2年生1名の合計2名が参加し、3月の短期留学には、1年生5名、2年生1名の合計6名が参加した。しかし、短期留学には本校教諭が1名同行しなくてはならず、費用がかかり過ぎることが大きな問題である。今後は、飯田女子高校のオーストラリア留学とコラボレーションできるか検討していきたい。

(3) 生徒に対する支援の充実

① 1学年

今年度は、車椅子の生徒が1名入学した。専属の教諭をつけて対応することで、移動教室にも参加できた。他にも障害を抱えている者がいるが、体育の授業などでは丁寧に指導していると聞いている。知的障害を抱えているであろう生徒については、中学校に赴き、中学での生活はどうだったのかヒアリングするなどし、過去の履歴をたどりながら今の学校生活に活かせる指導があればそれを取り入れるなどしてきた。

学年全体に言えることだが、4月の入学当初には、掃除が全くできない生徒がいたものの、今ではしっかりと個々の生徒が取り組むようになってきている。担任や副担任が一丸となって指導した結果といえる。これらの丁寧な指導により、生徒らは徐々に伊那西高校に信頼を寄せるようになってきている。中学では見放されていたと語る生徒もいるので、教員からの愛情を少しずつ感じているのではないかと思う。引き続きこのような指導を心がけたい。

② 2学年

10月に行われた北海道修学旅行では101名全員の参加を達成することができた。「楽しい」という意味を「場所」で感じるのではなく「人」で感じる大切な行事になったと思う。

日常生活に生きがいを感じる生徒が多数の中で、なかなか楽しさややりがいを実感できない生徒も見られた。12月末で1名の生徒が他校への転学となった。そこに至るまでに担任、学年の教員から面談の時間を多くとったがこちらの思うような結果が出せなかった。

③ 3学年

入学式で129名の新生を迎えてスタートしたが、卒業時は105名となり、81%と目標値である95%を大幅に下回る状態となってしまった。この学年は、コロナ禍の影響も考えられ、他校でも多数の転学者が出ている。本校でもこれ程多くの転退学者が出たことはない。いずれにしても、今後は、担任を中心に全職員で生徒の変化に気を配り、初期対応に落ち度が無いよう、素早い対応を更に強化したい。

③課外活動

クラス以外のもう一つの居場所がクラブ活動である。昨今、各クラブの部員の人数の減少が著しい中、本校のクラブ活動は現状を維持している。各顧問ほとんどの先生方が専門性を生かして活躍してくれている。

今年度運動クラブ加入率…34%。文化部加入率…57%。全体加入率…90%。

インターハイでは全クラブで県大会出場を果たした。新体操クラブ、フェンシング同好会、スケート同好会は全国大会まで駒を進めた。新人戦でもほぼすべての競技で県大会出場をした。文化クラブでも県展最優秀賞、全国大会出場など活躍がみられる。また、かんでんぱぱホールをお借りして開催した「伊那西高等学校芸術フェスティバル」は、多くの来場者を得て成功裏に終わった。今年度は、例年行われていた茶華道クラブによる呈茶に加え、合唱クラブと吹奏楽クラブの演奏も行った。各クラブともその特性を生かして熱心に活動しており、その活動の中から生徒が得るものも大きい。

生徒会では、通常の行事に加え、創立40周年を記念してさまざまな特別活動を実施した。被災支援の募金活動や地域との協働を通じて、伊那まつりへの参加を果たし、さらには地域振興活動にも積極的に取り組んだ。また、生徒募集の一環としてSNS（X, Instagram, TikTok）への投稿を積極的に行った。

④伊那西学習センター

4月より学習センター設立に向けた準備が本格化、10月1日に無事スタートすることができた。当初は3年生相当生徒が2名在籍し、担当者も生徒とともに飯田女子高校の助けを借りて学習活動を行った。令和7年度から1年生が2名本校から転学することが決まっている。中学校からの入学生2名を加え、令和7年度は6名でのスタートとなる。

（4）地域貢献・地域連携活動の推進

JR飯田線沢渡駅の無人化に伴い、生徒による清掃活動を開始し、12年目となった。これは、駅舎の美化にとどまらず、地域との連携が深まり、また生徒の意識向上にもつながる活動となっている。また、駅舎内に設けられた展示スペースの利用は本校に委託されており、文化クラブの発表を中心として、年間を通じて発表の場所となっている。

クラブ活動を通しての地域貢献・地域連携活動は以下の通り。

<運動クラブ>

バスケットボール	: 上伊那の中学校と合同練習を非定期で行い、中学生を高校生が指導することで、高校生の成長を高めるとともに交流を深めることができた。
ソフトボール	: 西春近北小学校のボール運動クラブを指導・支援した。信州知的障がい者ソフトボールクラブとの合同練習会（ボランティア）。長野県内の中学校チームと合同練習を行った。
卓球クラブ	: 西高祭では中川中を招待して中学校との交流試合を実施、また、上伊那の中学校（中川中・箕輪中）と合同練習を行い、交流を深めた。上伊那地区の一般の大会においては、大会に参加して地域の方々と交流するだけでなく、補助員として会場準備や審判、片付け清掃などを行い貢献している。
陸上競技	: 男女を問わず伊那の競技場で練習する中学生たちと一緒に練習することで、『誰が』ということなく、『同じ上伊那の選手』という仲間意識を持たせることができた。
弓道	: 西高祭や一日体験入学を通して、弓道の面白さを中学生や地域の人知ってもらうことができた。

<文化クラブ>

家庭科	: 芸術フェスティバルで作品を展示し、地域の方々に見てもらうことで、クラブの活動を知っていただくことができた。
インターアクト	: 伊那市駅の清掃を数回実施し、駅とその周辺の整美に努めた。 伊那市社会福祉協議会主催の様々なボランティア活動に参加し、本校インターアクトクラブの様子を地域の方々に広く知ってもらうことができた。また、障がい者支援施設や特別養護老人ホームなど各施設から交流会などのお話も多数いただき、実際に訪問することで利用者の方と交流を深め、社会の多様性を知ることができた。
合唱	: 伊那食品からの依頼で、地域に向けてのコンサートをかんでんぱ祭りで行えた。
吹奏楽	: 地域企業や団体主催の催しにアトラクションとして参加した。
折り紙工芸	: 駒ヶ根市昭和伊南病院のギャラリーに作品を展示させていただいき、通院の患者様からお褒めの言葉をいただいたほか、沢渡駅ギャラリー展示、芸フェスなどの機会に作品を発表するなど地域での活動に重点を置いている。
文芸	: 沢渡駅ギャラリーや芸フェスでの展示を通してクラブ活動の発信ができた。
演劇	: 西高祭での公演や一日体験入学等のクラブ体験を通して、中学生や西高祭を訪れてくれた方に活動を知っていただけた。 他校との合同公演として3月に春季公演を実施し、地域の方々や中学生に演劇を知ってもらえる機会をもっている。
茶華道	: 伊那能において、生け花を展示させていただいた。また、芸術フェスティバルでは呈茶を行い、近隣の方々にささやかながらも、おもてなしをすることができた。
書道	: 伊那警察署からの依頼で交通安全啓発の書道パフォーマンスを行うなど、発信や貢献をした。
英語研究	: KOA 株式会社と協働し、地元をPRするための動画の英訳を行った。 また、英語検定取得をほとんどの生徒が達成した。
マルチメディア	: 西高祭や芸術フェスティバル、ネット上の作品投稿サイトにて、作品の展示や投稿をしてきた。また、情報検定についても多くの生徒が挑戦し、資格を取得してきた。
美術	: 伊那美術展や長野県美術展に参加し、地域の美術を愛好している方々と接し学ばせて頂いている。 地域の文化祭、沢渡駅ギャラリー、美術フェスなどに作品を展示し情報発信が出来た。

(5) 進路支援の強化・充実

令和6年度卒業生の進路状況

	国公立大学	私立大学	飯田短大	その他短大	合計
四年制大学	3	32			35
短期大学			18	3	21
専門学校					26
就職					20
家居					3
合計					105

※国公立大学：諏訪東京理科大学1名、都留文科大学2名

就職者は、ほとんどが地元有力企業を中心として就職している。

全校に対しては、進路ガイダンス（大学、短大、専門学校を複数招いてブース相談形式）とキャリアフェス（上伊那の企業、市役所を複数招いてブース相談形式）、探究活動に絡めて、「地域の方々に学ぶ」（地域の様々なお仕事をされている方に来校いただき、興味関心のある職業人の話を聞く）また、1、2年生は3月に、「卒業生と企業の人事担当の方の話を聞く」を実施した。年間を通して、自分の将来を考えるきっかけを与え、前向きに進路を捉えさせた。また、進学希望者にはオープンキャンパス参加を、就職希望者には企業見学+インターンシップ参加を促した。加えて、学年、コース毎に本校教諭によるガイダンスを計画的に実行した。生徒は、日頃の学校生活を通し、自己肯定感を高めることにより、自分に合った進路獲得ができると考えている。

飯田短期大学との高大連携の強化により、飯田短期大学へ入学後、本校で受講した講義の単位が認められる制度を継続した。

大谷大学等の高大連携授業は、オンラインと対面の両方で実施された。

（6）施設、機器の充実

- ①タブレット端末は、個人所有 or 学校から貸し出しで、全校生徒がいつでも使用可能となっており、授業、HR、クラブ活動等に有効活用できている。
- ②プロジェクター、電子黒板を増やし、更なるICT教育の充実を図った。
- ③1教室をスタディールームとして、個人スペースのある机（40周年記念に同窓会より寄贈）を設置した。朝、放課後、休日に生徒に開放し、個別指導や自習等に活用している。
- ④クラブ棟の伊那西学習センターおよび、書道室にエアコン設置。

今後の予定

- ①調理室のリニューアル（9月の「1日体験入学」までには完成させ、中学生に披露したい）
- ②教員用、Windows 11搭載のパソコンを27台購入
- ③老朽化の進む箇所の修繕
- ④蛍光灯からLEDへの交換（徐々に進めていきたい）

○その他

- ①教務システムを一新（キャンパスプラン⇒e教務）
- ②連絡ツールを一新（オクレンジャー⇒さくら連絡網）
- ③ウェブ出願に対応（MIRAI COMPASS）

【幼保連携型認定こども園慈光幼稚園】

令和6年度の園運営について、中長期計画で挙げた評価指標に基づいて評価を行った。

1、「建学の精神」の共有

(1) 職員間での共有

①教職員研修

- ・初回職員会にて令和6年度重点目標と共に配布し、読み合わせを行った。これまで職員が日常的に目にすることがなかったが、配布したことで共通理解が促された。
- ・教職員自己評価でも、「園が目指していること(教育・保育目標など)について、全職員で共通理解を図りながら、教育・保育の充実を図っている」の評価項目についての結果が、「十分達成されている」が30%、「おおむね達成されている」が70%だった。

(2) 仏教精神を根底においた、ともに育つ保育の実践

①仏教行事等の充実

- ・職員間で行事の意味について語り合う機会は設けられなかったが、扱う絵本などの教材を通して保育者自身が行事の意味を理解し、園児と共に行事に参加することはできた。
- ・行事後には各担任が、身近な動植物等の事象を捉えて命に関する話を園児に向けてするなど、日常でも行事を振り返ることができていた。

(3) 保護者の学び

①保護者への周知による意識の向上

- ・日頃、保護者からの大きな改善を望む声はほとんどなく、保護者アンケートの自由記述でも我が子の成長に対する感謝が綴られたものが増えた。
- ・職員が些細な園児の変化や保護者の表情の変化を見逃さずに声を掛けてきたことで、保護者との信頼関係を構築でき、保護者の協力も得られる体制が整えられた。

2、入学者の確保

状況	1号認定	2号認定	3号認定	合計	途中入園	市内転園	前年度比
定員	60	80	40	180			
令和5年度	4月1日	42	75	34	28	5	-22
	3月1日	63	76	40			179
令和6年度	4月1日	39	80	35	18	0	+3
	3月1日	46	83	43			172

(1) 園内外への情報発信

- ・出生数との比較は今後行う。
- ・今年度は市内での転園はなし。

①入学説明会の充実

- ・昨年度までは2回共、土曜の午前中の実施だったが、1回を平日の夕方実施したところ、両親揃っての参加が増えた。
- ・遊びによる学びの説明、オムツのサブスクなどの保護者支援となる事柄の説明を充実させた。
- ・説明会出席35組中、入園家庭は16組、その内の新規入園家庭は11組であった。更に増やす努力が必要だ。今後は学区外の方々へのアプローチに力を入れていきたい。

②未満児保護者に向けた就学までの教育の説明・・・特に行わなかった

③小学校への単独で入学する園児・保護者に向けた支援

- ・小学校への園児の様子の伝達、個別懇談での保護者の不安の軽減、学級懇談の際に保護者同士で入学に向けての情報交換の機会を持つなど工夫した。保護者の不安が大きい場合は、小学校と教育相

談を行うようにした。(就学判断1人、教育相談4人)

(2) 子育て支援事業の充実

①子育て支援事業の充実

- ・未就園児親子登園の対象を満2歳までに拡大。12回実施し、参加数累計が令和5年度は83組、令和6年度は185組と増加。参加費を無料としたことも功を奏したようだ。参加した幼児の中で入園に繋がった幼児もある。
- ・今年度初めて0歳児親子に向けた親子教室(BP2プログラム)を試験的に実施。年間3回実施し、23組が参加。内6組が外部からの参加があり、1組新規入園に繋がった。

(3) 未満児受け入れ体制の充実

①未満児保育室の改修

- ・0,1歳児からの入園児増加を見込み、0歳児保育室横のトイレ空きスペースを保育室化。保育室の面積が広がり、且つ個別に対応できるスペースとして有効活用できるようになった。
- ・会議室を2歳児保育室として使用しているスペースのフローリングの張り替えは予算の関係で次年度に持ち越し

②未満児保育の質の向上

- ・非常勤職員への研修は、今年度は実施できなかったため、来年度より行う。
- ・研修報告書を回覧し学びを共有したが、今後は研修資料も回覧することで深く学べるようにする。

3, 教育の質の向上

(1) 指導計画の見直し

- ①教育課程・指導計画の見直し…令和7年度に実施予定

(2) 学びの充実

①研究保育・研究会の充実

- ・信州幼児教育支援センター主催フィールド研修実践園となり、次のようなテーマで研究・公開を行った。

研究テーマ	園児の「やりたい」という思いを支える教材・題材・素材について考える
園内研究 年6回	○教育・保育の中の教材を事例から考える(小グループディスカッション) ○6/10:講師に長野県立大学教授金山美和子先生を招致
フィールド研修 年4回	○リモートでの研究の進捗・成果の発表 ○公開保育 [参加者] 約30人(市内小学校長・園長・短大教員含)

③外部の研修へ積極的に参加を促す

- ・正規職員を中心に、合計26の研修に参加。受講人数の累計は63人で、平均受講回数は3.9。研修後、各自研修報告の提出もあり、職員会での報告、報告書の回覧を行った。

4, 園児に対する支援の充実

(1) 適切な教育・保育の実現

①安全・安心な教育・保育

- ・保護者アンケートの項目で評価指標に関係した項目は、下記のような評価となっている。

施設・遊具の安全対策を行っている	96.4%
保護者との連携が積極的に行われている	96.4%
お子さんの心身の健康について気軽に相談できる	97.1%
一人一人のこどもを大切にしようとしていることが感じられる	99.3%
保護者アンケート回答率 83.7%	

(2) 環境整備

①屋上の改修

- ・現時点では使用できる状態であるため、改修は令和7年度に定めず状況を見ながら必要に応じて行う。

②定期的な遊具の安全点検：

- ・今年度よりジャクエツの遊具安全点検が有料化。受検し、結果を職員に報告。使用時の注意等も伝達した。

5、地域貢献・地域連携活動の推進

(1)公民館活動やボランティア活動への参加

①公民館活動やボランティア活動への参加

- ・今年度は年長児が下記の活動に参加した。[7/7 第29回長野県童謡・歌唱フェスティバル兼第28回飯伊童唱まつり、7/10・17・25 橋北地区にこやか健康教室、11/13 幼年消防クラブ 秋の火災予防啓発活動（地域巡回）]
- ・「人権の花運動」に参加した。
- ・5年振りに人形劇フェスタの地域公演会場として会場を貸し、公演運営を行った。
- ・東北のどんぐりの栽培は、どんぐりの苗が育たなかったことから、今年度は返還することができず、再度植え直した。

②その他

- ・園を地域に開放した行事、参加人数は次の通り。[花まつり(5人)、たなばたまつり(4人)、作品展一般公開(38人)、成道会(3人)、もちつき(8人)、PTA人形劇クラブ上演(5人)]

6、PTA・同窓会との協力

(1)PTA 活動の見直し

①PTA 事業の見直し

- ・PTA クラス委員を各クラス1人ずつ減らし、役員は正副会長と幹事のみとし、書記・会計は置かず事務局の職員が行うようにした。
- ・PTA レクリエーション大会は、保護者からの要望もあり、新たな試みとしてミニ運動会を園庭にて行った。多数の参加あり。
- ・一年生招待会、卒業祝いの品の準備、PTA 文集『いつくしみ』発刊は、予算には組み込み、クラス委員の係活動は行わないようにした。
- ・今後は、委員のやりがいと職員の負担のバランスを取る必要がある。

②その他

- ・100周年記念事業を行った年から10年経ち、110周年を迎えた。大々的な事業は行わなかったが、園児作品展に併せて100周年からの10年の歩みを紹介する展示と卒業記念写真の展示を行い、園児・職員の家族や近隣の同窓生が来園され、懐かしんで観覧された。

7、職員のウェル・ビーイングの向上

(1)業務負担の軽減

①働き方改革の継続

- ・常勤は19時までには園を出られるようにはなったが、持ち帰る仕事もまだある。
- ・行事が続く10月～11月は特に、疲労が溜まる傾向にはあるため、行事予定の時期の調整が必要である。
- ・今年度より次の書類をデータ化したことで、業務の軽減を図った。[未満児指導要録、以上児月の

指導計画と反省・評価、出席簿、身体測定記録、ヒヤリハット・事故報告書、研修報告書]

(2)働きやすい職場作り

①認め合える環境作り(同僚性を高める)

- ・6月と2月の園長との面談にて、思いや考えを聞き取りした。また、必要に応じてその他の時期にも懇談をしている。適時に必要なフォローをすることで人間関係が良好になるよう配慮。
- ・園内研究会に小グループでのディスカッションを取り入れたことで、保育に対する考えを伝え合う機会が増えた。

(3)心身共に健康に働く

①心身共に健康で、生涯に亘って働けるひとの育成

- ・今年度の退職理由は次の通り。[常勤1人が他園への就職を希望、他県で入籍、治療中の病あり、子育てに専念]
- ・管理職が職員の心身の健康状況に配慮し、必要な時に無理せず休暇が取れるようにした。

8, その他、特記すべき事項

- 飯田市長寿企業等表彰を受けた。
- 園医(歯科医師)の池田健蔵氏死去により、池田美菜子医師に委託。

Ⅲ. 財務の概要

年度当初の学園全体の学生・生徒・園児数（以下「学生数」という。）は、前年比 41 名の減少となり、収入面では学生生徒等納付金収入は、前年度比で△4,705 万となった。学生数の減少は、今後も続くと予想され、納付金収入の減少が懸念されるため、募集活動の強化による学生数確保が課題となる。また、特に短期大学においては、教育の質の向上による補助金の確保および科研費等の外部資金獲得に積極的に取り組み、教育活動活性化も合わせた取り組みの必要がある。

支出面では、人件費は、前年比 10,252 万増となったが、退職金を除くと前年比△564 万となっている。前年同様に教育活動等が活発に行われるようになり、教育研究経費、管理経費等の支出は前年と同水準で推移した。

事業活動収入は前年比△506 万となったが支出はさらに前年比 9,440 万増となり、収支面で苦しい状況となった。また、人件費比率は、依然として支出全体に占める割合が高い状況であり、常に収支バランスが保てるような体制づくりが必要となる。

結果として学園全体の基本金組入前当年度収支差額は、△23,084 万円の支出超過であった。前年度に引き続き依然マイナス収支であり、単年度の支出超過は、一定の資産の維持及び設備更新時の資金を取崩している状況であることを示しており、今後は、策定された中長期計画に基づいた、学園経営健全化に向けた取組のなかで、収入超過を目指し、施設・設備等の維持・更新等に必要となる費用を確保できる財政状態に転換していきたい。

建学の精神に基づいた教育を軸としつつ、今の時代や学生・生徒のニーズに応えられる学園、そして、地域社会に認められる学園となるよう努力を続けていきたい。